

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	<p>7. 蒸発率等及び相対濃度の評価について</p> <p>発生源ごとに、有毒化学物質の性状及び保管状態から放出形態を想定し、有毒ガスの単位時間当たりの大気中への放出量及びその継続時間を評価する。気体状の発生源については、全量が1時間で放出し、評価点まで拡散するものとする。液体状の発生源については、防液堤内に漏えいしたあとは、堰面積、温度等に応じた蒸発率で蒸発するものとする。なお、液体状の発生源のうち、届出情報より堰面積の情報が得られなかったものについては、全量が1時間で放出し、評価点まで拡散するものとした。</p> <p>(1) 蒸発率について</p> <p>蒸発率は、文献「Modeling Hydrochloric Acid Evaporation in ALOHA」及び「伝熱工学資料（改訂第5版 日本機械学会）」に基づき、以下に示す計算式で評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 蒸発率 E $E = A \times K_M \times \left(\frac{M_w \times P_v}{R \times T} \right) \quad \dots (3-1)$ 物質移動係数 K_M $K_M = 0.0048 \times U^{\frac{7}{9}} \times Z^{-\frac{1}{9}} \times S_C^{-\frac{2}{3}} \quad \dots (3-2)$ $S_C = \frac{v}{D_M} \quad \dots (3-3)$ $D_M = D_{H_2O} \times \sqrt{\frac{M_{WH_2O}}{M_{Wm}}} \quad \dots (3-4)$ $D_{H_2O} = D_0 \times \left(\frac{T}{273.15} \right)^{1.75} \quad \dots (3-5)$ 蒸発率補正 E_C $E_C = - \left(\frac{P_a}{P_v} \right) \ln \left(1 - \frac{P_v}{P_a} \right) \times E \quad \dots (3-6)$ 	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>単位</th> <th>記号の意味</th> <th>代入値</th> <th>代入値又は算出式の根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>K_M</td> <td>m/s</td> <td>化学物質の物質移動係数</td> <td>-</td> <td>・(3-2)式により算出</td> </tr> <tr> <td>M_w, M_{w_m}</td> <td>kg/kmol</td> <td>化学物質のモル質量</td> <td>-</td> <td>・物性値</td> </tr> <tr> <td>P_a</td> <td>Pa</td> <td>大気圧</td> <td>101,325</td> <td>・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版</td> </tr> <tr> <td>P_v</td> <td>Pa</td> <td>化学物質の分圧</td> <td>-</td> <td>・物性値</td> </tr> <tr> <td>R</td> <td>J/kmol·K</td> <td>気体定数</td> <td>8314.45</td> <td>・気体定数 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版</td> </tr> <tr> <td>T</td> <td>K</td> <td>温度</td> <td>-</td> <td>・気象データ</td> </tr> <tr> <td>U</td> <td>m/s</td> <td>風速</td> <td>-</td> <td>・気象データ</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>m²</td> <td>堰面積</td> <td>-</td> <td>・固定源に設置されている防液堤の堰面積</td> </tr> <tr> <td>Z</td> <td>m</td> <td>プール直径</td> <td>-</td> <td>・堰面積より算出 ($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)</td> </tr> <tr> <td>$S_c$</td> <td>-</td> <td>化学物質のシュミット数</td> <td>-</td> <td>・(3-3)式により算出</td> </tr> <tr> <td>ν</td> <td>m²/s</td> <td>空気の動粘性係数</td> <td>-</td> <td>・雰囲気温度(T)と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出 ($\nu = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> <tr> <td>D_M</td> <td>m²/s</td> <td>化学物質の分子拡散係数</td> <td>-</td> <td>・(3-4)式により算出</td> </tr> <tr> <td>D_0</td> <td>m²/s</td> <td>水の物質拡散係数</td> <td>2.2×10^{-5}</td> <td>・定数(温度0℃, 大気圧P_aのとき) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> <tr> <td>D_{H_2O}</td> <td>m²/s</td> <td>水の物質拡散係数</td> <td>-</td> <td>・(3-5)式により算出(温度T, 圧力P_vのとき)</td> </tr> <tr> <td>M_{WH_2O}</td> <td>kg/kmol</td> <td>水のモル質量</td> <td>18.015</td> <td>・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> </tbody> </table>	記号	単位	記号の意味	代入値	代入値又は算出式の根拠	K_M	m/s	化学物質の物質移動係数	-	・(3-2)式により算出	M_w, M_{w_m}	kg/kmol	化学物質のモル質量	-	・物性値	P_a	Pa	大気圧	101,325	・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版	P_v	Pa	化学物質の分圧	-	・物性値	R	J/kmol·K	気体定数	8314.45	・気体定数 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版	T	K	温度	-	・気象データ	U	m/s	風速	-	・気象データ	A	m ²	堰面積	-	・固定源に設置されている防液堤の堰面積	Z	m	プール直径	-	・堰面積より算出 ($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)	S_c	-	化学物質のシュミット数	-	・(3-3)式により算出	ν	m ² /s	空気の動粘性係数	-	・雰囲気温度(T)と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出 ($\nu = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	D_M	m ² /s	化学物質の分子拡散係数	-	・(3-4)式により算出	D_0	m ² /s	水の物質拡散係数	2.2×10^{-5}	・定数(温度0℃, 大気圧 P_a のとき) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	D_{H_2O}	m ² /s	水の物質拡散係数	-	・(3-5)式により算出(温度 T , 圧力 P_v のとき)	M_{WH_2O}	kg/kmol	水のモル質量	18.015	・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
記号	単位	記号の意味	代入値	代入値又は算出式の根拠																																																																														
K_M	m/s	化学物質の物質移動係数	-	・(3-2)式により算出																																																																														
M_w, M_{w_m}	kg/kmol	化学物質のモル質量	-	・物性値																																																																														
P_a	Pa	大気圧	101,325	・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版																																																																														
P_v	Pa	化学物質の分圧	-	・物性値																																																																														
R	J/kmol·K	気体定数	8314.45	・気体定数 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版																																																																														
T	K	温度	-	・気象データ																																																																														
U	m/s	風速	-	・気象データ																																																																														
A	m ²	堰面積	-	・固定源に設置されている防液堤の堰面積																																																																														
Z	m	プール直径	-	・堰面積より算出 ($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)																																																																														
S_c	-	化学物質のシュミット数	-	・(3-3)式により算出																																																																														
ν	m ² /s	空気の動粘性係数	-	・雰囲気温度(T)と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出 ($\nu = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														
D_M	m ² /s	化学物質の分子拡散係数	-	・(3-4)式により算出																																																																														
D_0	m ² /s	水の物質拡散係数	2.2×10^{-5}	・定数(温度0℃, 大気圧 P_a のとき) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														
D_{H_2O}	m ² /s	水の物質拡散係数	-	・(3-5)式により算出(温度 T , 圧力 P_v のとき)																																																																														
M_{WH_2O}	kg/kmol	水のモル質量	18.015	・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														
<p>2. 大気拡散評価について</p> <p>相対濃度は、気象指針の大気拡散の評価式である(1)式及び(2-1, 2)式に従い、各評価点と敷地外固定源との位置関係に基づき評価する。</p> <p>スクリーニング評価に使用する相対濃度は、大気拡散の評価式により求めた相対濃度のうち年間毎時刻での外気濃度を小さい方から順に並べ、累積出現頻度97%に当たる値とする。</p> <p>累積出現頻度97%に当たる値が得られない場合においては、累積出現頻度98%に当たる値をスクリーニング評価に使用する。</p> <p>実効放出継続時間は、気象指針に示された実効放出継続時間のうち最も短い1時間とする。</p> <p>解析に用いる気象条件は、女川原子力発電所の安全解析に使用している気象(2012年1月～2012年12月)とする。</p>	<p>(2) 相対濃度について</p> <p>相対濃度は、「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」(以下「気象指針」という。)の大気拡散の評価式である(1)式、(2-1)式及び(2-2)式に従い、発生源と評価点との位置関係に基づき評価する。</p> <p>評価に使用する相対濃度は、大気拡散の評価式により年間毎時刻の気象データから求める。</p> <p>実効放出継続時間は、大気拡散の評価式で設定できる最短時間である1時間とする。</p> <p>評価に用いる気象条件は、東海第二発電所の安全解析に使用している気象期間(2005年4月～2006年3月)のデータとする。</p>	<p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・スクリーニング評価の対象の相違</p> <p>・スクリーニング評価の対象の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・記載表現の相違</p> <p>・評価に使用する気象データの相違</p>																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
<p>大気拡散評価の条件を表2に、相対濃度の累積出現頻度の評価結果を図15に示す。</p> <p>なお、評価点と敷地内可動源は十分に離隔していることから、建屋影響の考慮は実施していない。</p> $\chi/Q = \frac{1}{T} \sum_{i=1}^T (\chi/Q)_i \cdot \delta_i \quad \dots(1)$ <p>(建屋影響を考慮しない場合)</p> $(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sigma_{yi} \cdot \sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sigma_{zi}^2}\right) \quad \dots(2-1)$ <p>(建屋影響を考慮する場合)</p> $(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \Sigma_{yi} \cdot \Sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\Sigma_{zi}^2}\right) \quad \dots(2-2)$ <p>χ/Q : 実効放出継続時間中の相対濃度 (s/m³) T : 実効放出継続時間 (h) $(\chi/Q)_i$: 時刻<i>i</i>における相対濃度(s/m³) δ_i : 時刻<i>i</i>において風向が当該方位<i>d</i>にあるとき $\delta_i=1$ 時刻<i>i</i>において風向が当該方位<i>d</i>にないとき $\delta_i=0$ σ_{yi} : 時刻<i>i</i>における濃度分布のy方向の拡がりのパラメータ (m) σ_{zi} : 時刻<i>i</i>における濃度分布のz方向の拡がりのパラメータ (m) U_i : 時刻<i>i</i>における風速 (m/s) H : 放出源の有効高さ (m) Σ_{yi} : $\left(\sigma_{yi}^2 + \frac{cA}{\pi}\right)^{1/2}$ Σ_{zi} : $\left(\sigma_{zi}^2 + \frac{cA}{\pi}\right)^{1/2}$ A : 建屋等の風向方向の投影面積 (m²) c : 形状係数</p>	<p>なお、気象指針に基づき、発生源から評価点を見た方位を評価する。 また、評価の保守性の観点から、発生源と評価点との高低差を考慮せず、地上放出として取り扱う。</p> <p>大気拡散評価の条件を第4表に、蒸発率等及び相対濃度の評価結果を第5表に示す。</p> $\chi/Q = \frac{1}{T} \sum_{i=1}^T (\chi/Q)_i \cdot \delta_i \quad \dots(1)$ <p>(建屋影響を考慮しない場合)</p> $(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \sigma_{yi} \cdot \sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\sigma_{zi}^2}\right) \quad \dots(2-1)$ <p>(建屋影響を考慮する場合)</p> $(\chi/Q)_i = \frac{1}{\pi \cdot \Sigma_{yi} \cdot \Sigma_{zi} \cdot U_i} \cdot \exp\left(-\frac{H^2}{2\Sigma_{zi}^2}\right) \quad \dots(2-2)$ <p>χ/Q : 実効放出継続時間中の相対濃度 (s/m³) T : 実効放出継続時間 (h) $(\chi/Q)_i$: 時刻<i>i</i>における相対濃度(s/m³) δ_i : 時刻<i>i</i>において風向が当該方位<i>d</i>にあるとき $\delta_i=1$ 時刻<i>i</i>において風向が当該方位<i>d</i>にないとき $\delta_i=0$ σ_{yi} : 時刻<i>i</i>における濃度分布のy方向の拡がりのパラメータ (m) σ_{zi} : 時刻<i>i</i>における濃度分布のz方向の拡がりのパラメータ (m) U_i : 時刻<i>i</i>における風速 (m/s) H : 放出源の有効高さ (m) Σ_{yi} : $\left(\sigma_{yi}^2 + \frac{cA}{\pi}\right)^{1/2}$ Σ_{zi} : $\left(\sigma_{zi}^2 + \frac{cA}{\pi}\right)^{1/2}$ A : 建屋等の風向方向の投影面積 (m²) c : 形状係数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・記載箇所の相違 ・記載箇所の相違 ・記載表現の相違 ・記載箇所の相違 ・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）			東海第二発電所 有毒ガス			差異理由
表2 大気拡散評価の条件			第4表 大気拡散評価の条件			<ul style="list-style-type: none"> ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 ・評価に使用する気象データの相違 ・記載表現の相違 ・検定に使用する気象データの統計期間の相違 ・記載表現の相違 ・スクリーニング評価の対象の相違 ・記載表現の相違 ・記載表現の相違 ・スクリーニング評価の対象の相違
項目	評価条件	選定理由	項目	評価条件	選定理由	
大気拡散評価モデル	「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」の大気拡散の評価式に従い算出	有毒ガスの放出形態を考慮して設定（別紙8-1参照）	大気拡散評価モデル	「気象指針」の大気拡散の評価式に従い算出	有毒ガスの放出形態を考慮して設定（別紙10-1参照）	
気象データ	女川原子力発電所における1年間の気象データ（2012年1月～2012年12月）	当該気象を除く至近10年（2010年1月～2020年12月）の気象データと比較して特に異常な年ではなく、また、評価対象とする地理的範囲を代表する気象であることから設定（別紙7参照）	気象データ	東海第二発電所における1年間の気象データ（2005年4月～2006年3月）	原子炉設置変更許可時点の至近10年（2008年4月～2018年3月）の気象データと比較して特に異常な年ではなく、また、評価対象とする地理的範囲を代表する気象であることから設定（別紙9参照）	
実効放出継続時間	1時間	「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」の、想定事故時の大気拡散の評価式（短時間放出）の適用のため	実効放出継続時間	1時間	「気象指針」の、想定事故時の大気拡散の評価式（短時間放出）の適用のため	
放出源及び放出源高さ	固定源ごとに評価点との位置関係を考慮し設定	ガイドに示されたとおり設定	放出源及び放出源高さ	固定源ごとに評価点との位置関係を考慮し設定	ガイドに示されたとおり設定	
相対濃度の累積出現頻度	毎時刻の相対濃度を年間について小さい方から累積して97%※	ガイドに示されたとおり設定	累積出現頻度	小さい方から累積して97%	ガイドに示されたとおり設定	
建屋影響	考慮しない	発生源から評価点の離隔が十分あるため（別紙8-2参照）	建屋巻き込み	・敷地内固定源：考慮する ・敷地外固定源：考慮しない	敷地外固定源は、発生源から評価点の離隔が十分あるため考慮しない（別紙10-2参照）	
相対濃度の評価点	中央制御室外気取入口及び緊急時対策所外気取入口	ガイドに示されたとおり設定	濃度の評価点	・中央制御室外気取入口 ・緊急時対策所外気取入口 ・重要操作地点	ガイドに示されたとおり設定	

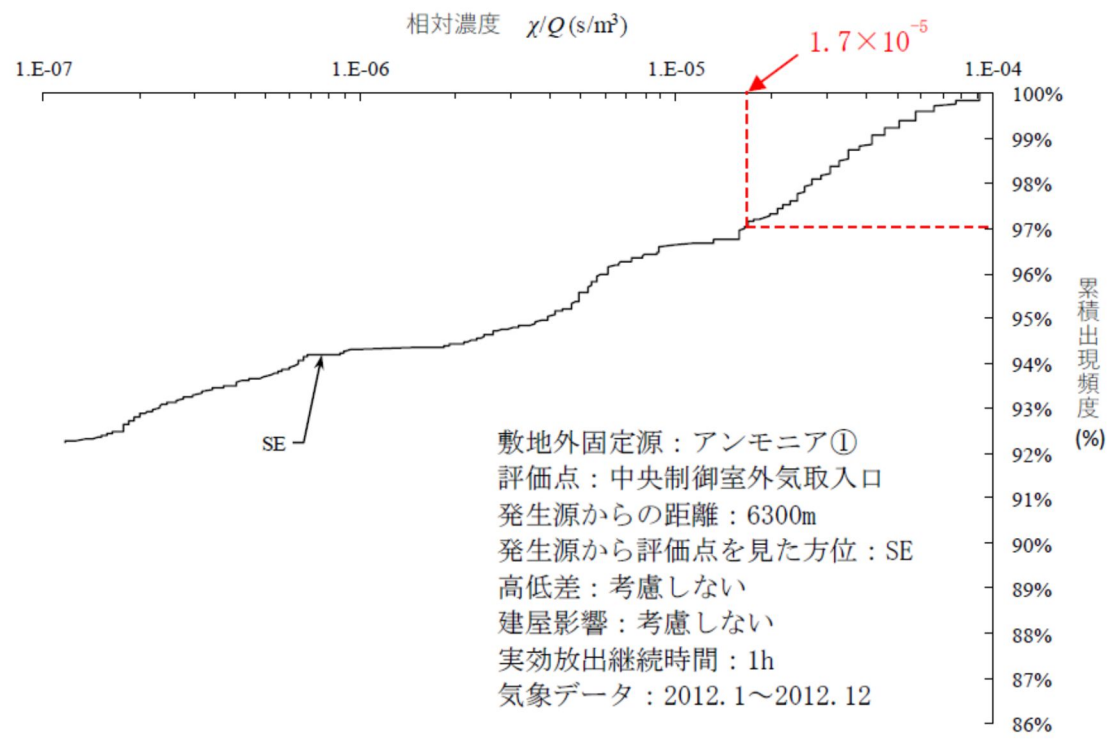
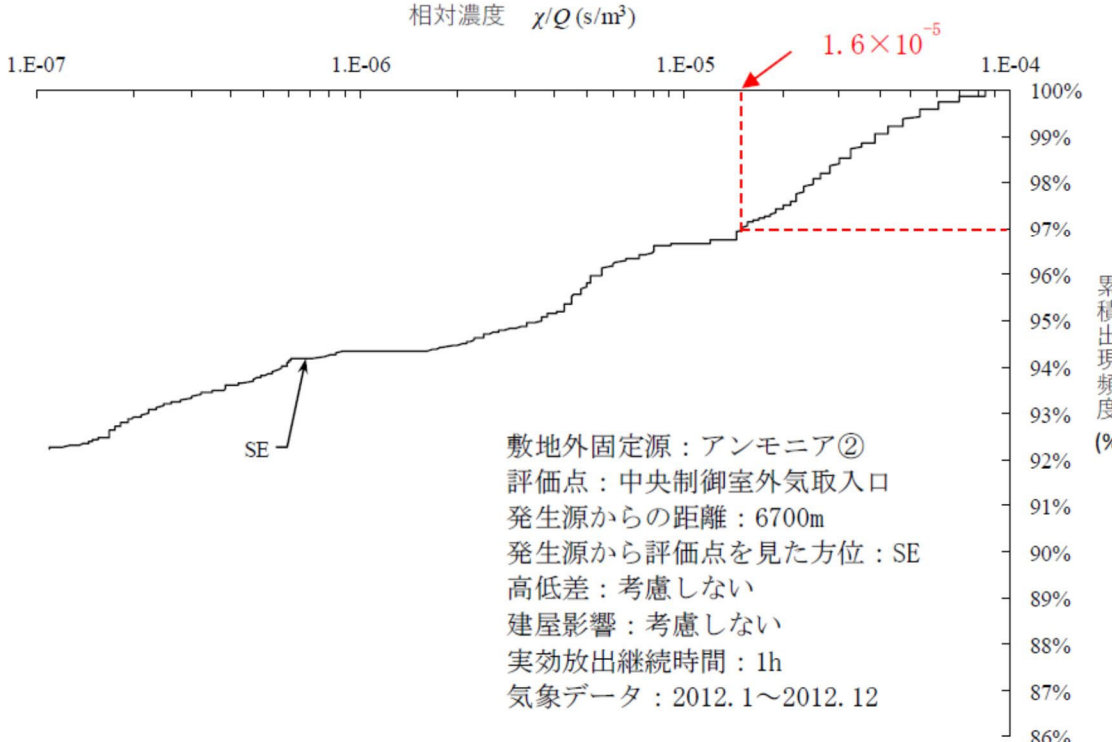
※：累積出現頻度97%値が得られない場合においては、累積出現頻度98%に当たる値を用いる

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

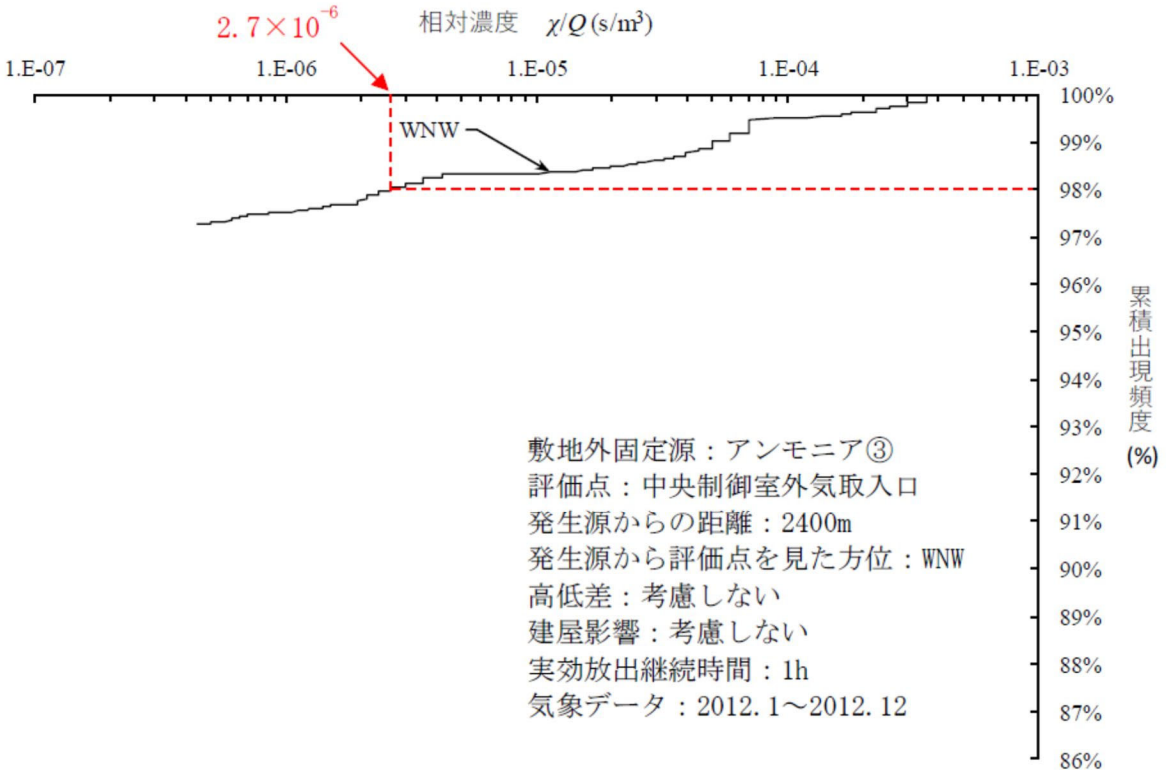
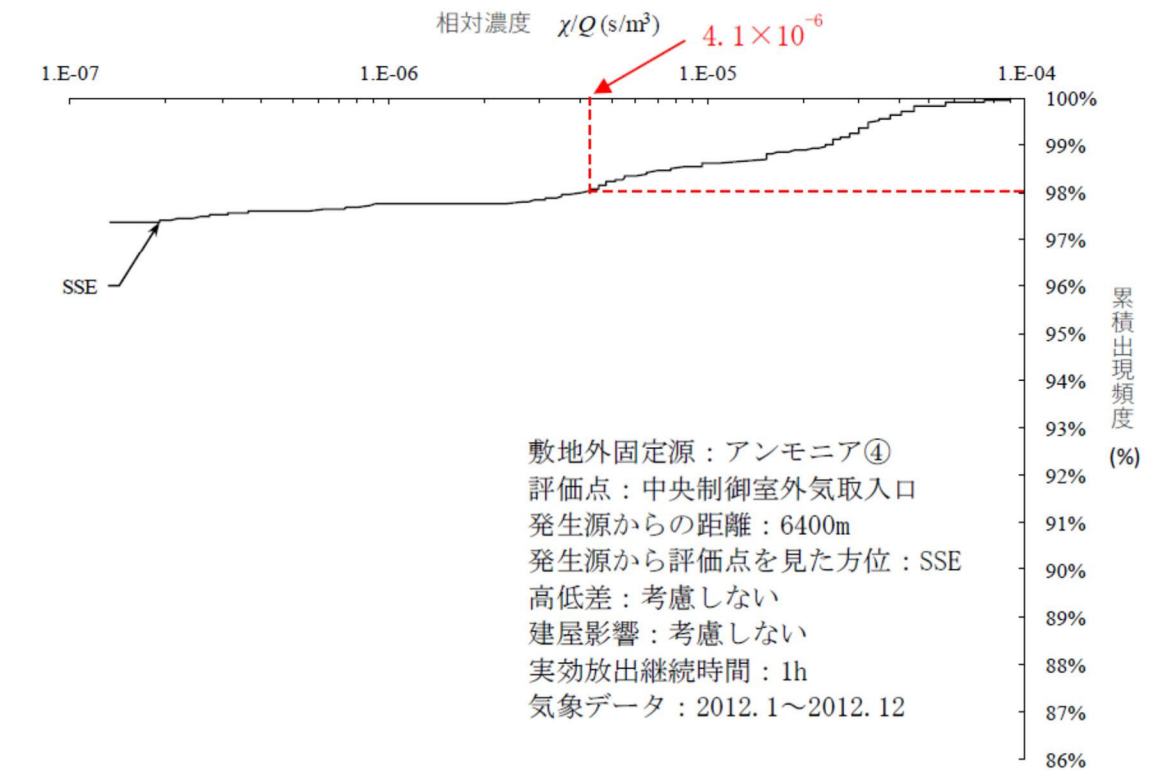
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (1/8)</p>  <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (2/8)</p>		<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

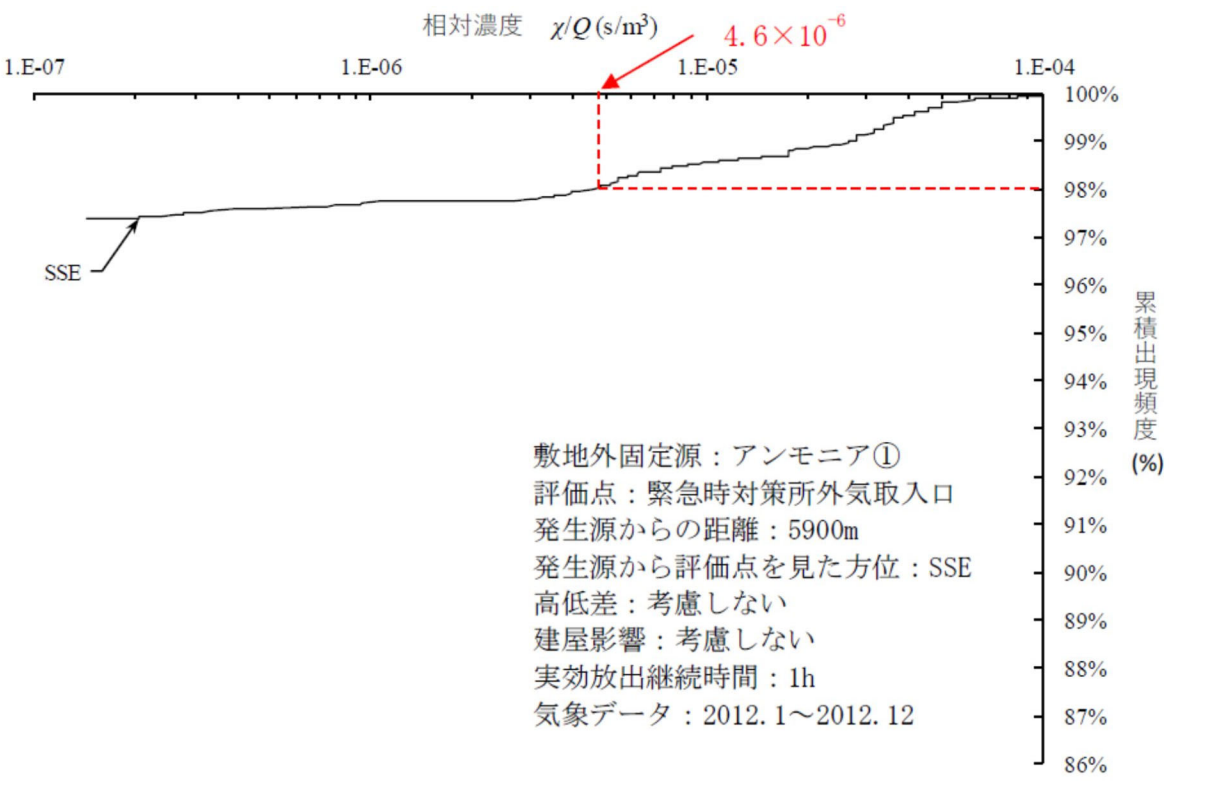
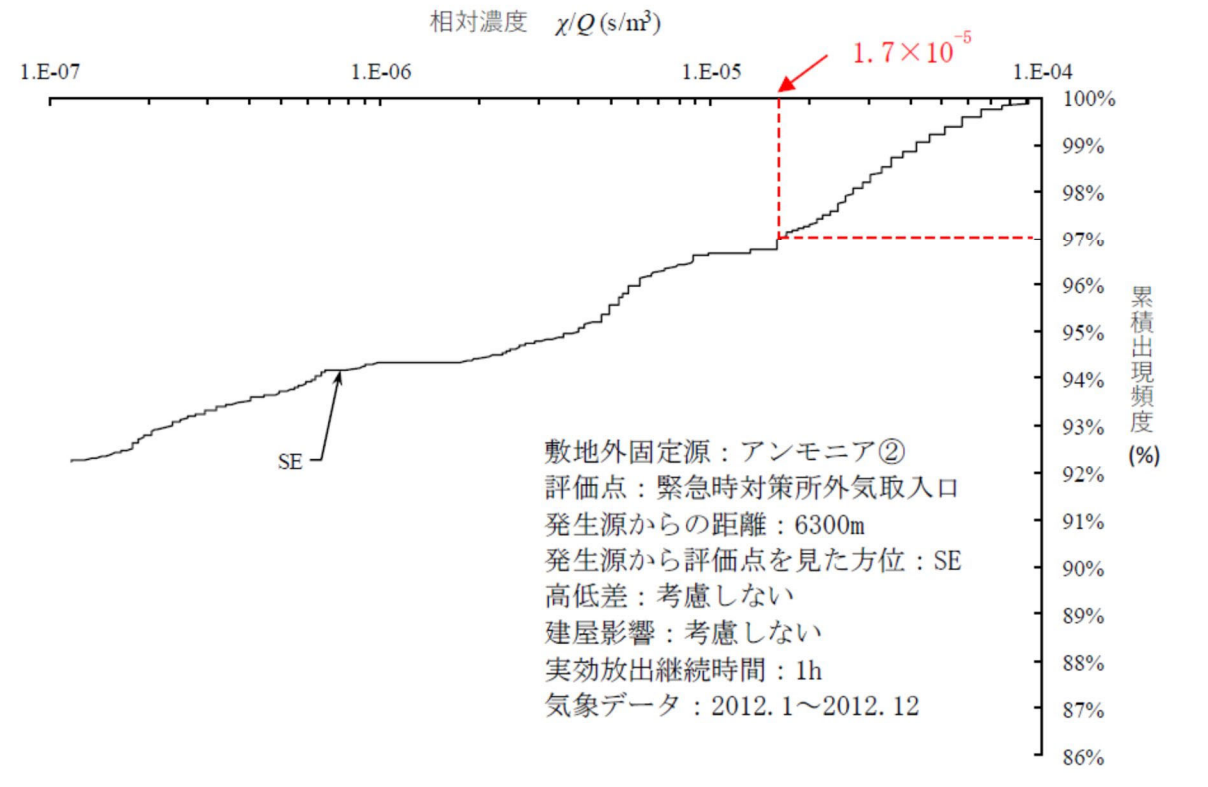
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (3/8)</p>	 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (4/8)</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

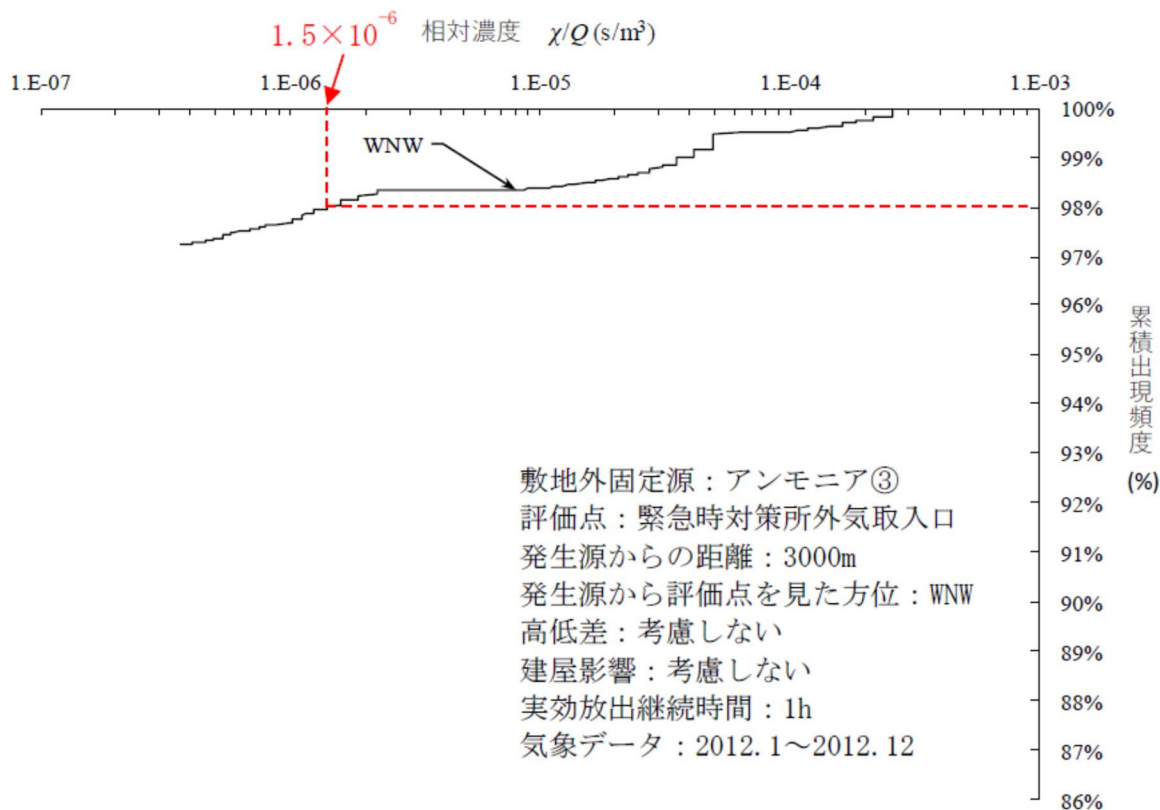
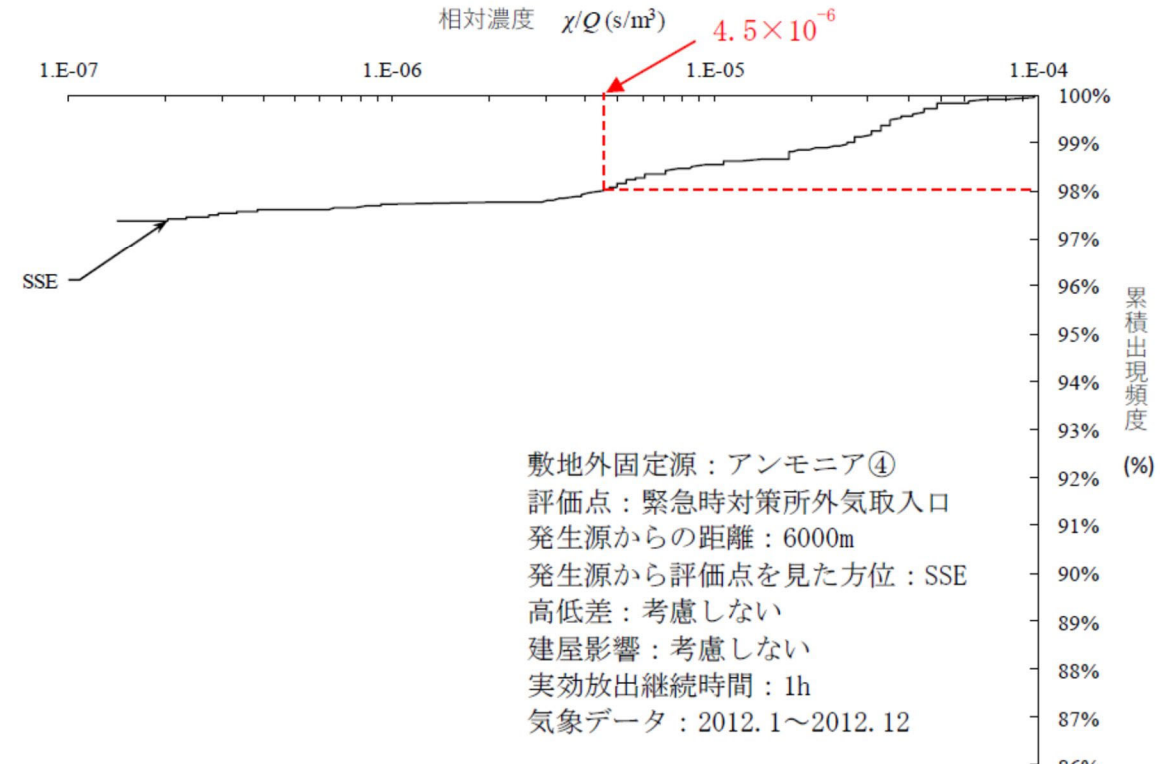
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (5/8)</p>	 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (6/8)</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
 <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (7/8)</p>  <p>図15 相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度の評価結果 (8/8)</p>		<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
<p>3. スクリーニング評価に用いる相対濃度について スクリーニング評価に使用する相対濃度を表3及び表4に示す。 スクリーニング評価においては、当該の相対濃度を用いて評価点における有毒ガス濃度を求める。その際、アンモニアのモル質量は17.0g/mol、気温は25℃、気圧は1気圧として評価する。</p> <p>表3 相対濃度の評価結果（中央制御室外気取入口）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">敷地外固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度^{※2} (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離^{※1} (m)</th> <th>発生源から 評価点を見た方位</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出 継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンモニア①</td> <td>6300</td> <td>SE</td> <td>2.8</td> <td>NW</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>1.7×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>6700</td> <td>SE</td> <td>2.8</td> <td>NW</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>1.6×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア③</td> <td>2400</td> <td>WNW</td> <td>0.8</td> <td>ESE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>2.7×10^{-6※3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア④</td> <td>6400</td> <td>SSE</td> <td>1.9</td> <td>NNW</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>4.1×10^{-6※3}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：100m未満切り捨て ※2：有効数字3桁目切り上げ ※3：累積出現頻度98%</p> <p>表4 相対濃度の評価結果（緊急時対策所外気取入口）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">敷地外固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度^{※2} (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離^{※1} (m)</th> <th>発生源から 評価点を見た方位</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出 継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンモニア①</td> <td>5900</td> <td>SSE</td> <td>1.9</td> <td>NNW</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>4.6×10^{-6※3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>6300</td> <td>SE</td> <td>2.8</td> <td>NW</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>1.7×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア③</td> <td>3000</td> <td>WNW</td> <td>0.8</td> <td>ESE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>1.5×10^{-6※3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア④</td> <td>6000</td> <td>SSE</td> <td>1.9</td> <td>NNW</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮しない</td> <td>4.5×10^{-6※3}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1：100m未満切り捨て ※2：有効数字3桁目切り上げ ※3：累積出現頻度98%</p>	敷地外固定源	相対濃度評価条件							相対濃度 ^{※2} (s/m ³)	距離 ^{※1} (m)	発生源から 評価点を見た方位	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出 継続時間 (h)	建屋影響	アンモニア①	6300	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.7×10 ⁻⁵	アンモニア②	6700	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.6×10 ⁻⁵	アンモニア③	2400	WNW	0.8	ESE	B	1	考慮しない	2.7×10 ^{-6※3}	アンモニア④	6400	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.1×10 ^{-6※3}	敷地外固定源	相対濃度評価条件							相対濃度 ^{※2} (s/m ³)	距離 ^{※1} (m)	発生源から 評価点を見た方位	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出 継続時間 (h)	建屋影響	アンモニア①	5900	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.6×10 ^{-6※3}	アンモニア②	6300	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.7×10 ⁻⁵	アンモニア③	3000	WNW	0.8	ESE	B	1	考慮しない	1.5×10 ^{-6※3}	アンモニア④	6000	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.5×10 ^{-6※3}	<p>第5表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果（1/7） （中央制御室外気取入口）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3">敷地内</th> <th rowspan="3">固定源</th> <th rowspan="3">貯蔵量</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="3">放出継続 時間(h)</th> <th rowspan="3">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">薬品濃度(wt%)</th> <th colspan="2">堰面積(m²)</th> </tr> <tr> <th>届出情報</th> <th>評価条件</th> <th>届出情報</th> <th>評価条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="20">敷地外</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0(m³)</td> <td>25</td> <td>26^{※1}</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8.8×10⁻¹</td> <td>8.2×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>アンモニア①</td> <td>10000(kg)</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>6.9×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td>5000(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>4.9×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td>9450(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>9.2×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>2000(kg)</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>5.6×10⁻² ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア③</td> <td>150000(kg) ×2基</td> <td>99</td> <td>99</td> <td>292</td> <td>—^{※5}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>8.3×10¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>塩酸③-1</td> <td>22420(kg) ×2基</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>129</td> <td>129</td> <td>3.2×10¹</td> <td>1.4×10⁻¹</td> </tr> <tr> <td>塩酸③-2</td> <td>44840(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>148</td> <td>148</td> <td>2.8×10¹</td> <td>1.5×10⁻¹</td> </tr> <tr> <td>塩酸③-3</td> <td>7080(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>2.4×10¹</td> <td>2.9×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>アンモニア④</td> <td>18(kg)</td> <td>—</td> <td>100^{※2}</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>5.0×10⁻³ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td>900(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>11.5</td> <td>12^{※4}</td> <td>4.9×10⁰</td> <td>1.8×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td>3000(L)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>2.5×10¹</td> <td>1.4×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td>7000(kg)</td> <td>62</td> <td>62</td> <td>12.8</td> <td>13^{※4}</td> <td>7.1×10²</td> <td>1.7×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td>3000(L)</td> <td>50</td> <td>50</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>3.5×10²</td> <td>1.2×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td>11.28(t)</td> <td>—</td> <td>100^{※2}</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>3.1×10⁰ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑥</td> <td>1800(kg)</td> <td>—</td> <td>100^{※2}</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>5.0×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑦</td> <td>800(kg)</td> <td>—</td> <td>100^{※2}</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>2.2×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-1</td> <td>2400(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>8.8</td> <td>9^{※4}</td> <td>1.7×10¹</td> <td>1.4×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td>1180(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>7.4×10⁰</td> <td>1.5×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td>2000(kg)</td> <td>35以上</td> <td>37^{※3}</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>2.1×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td>354(kg)</td> <td>35以上</td> <td>37^{※3}</td> <td>0.64</td> <td>1</td> <td>9.5×10⁰</td> <td>3.8×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-1</td> <td>1180(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>1.1×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td>3540(kg)</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>3.4×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-1</td> <td>3.0(m³)</td> <td>67.5</td> <td>68^{※4}</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>1.0×10²</td> <td>8.9×10⁻³</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-2</td> <td>1.5(m³)</td> <td>67.5</td> <td>68^{※4}</td> <td>92</td> <td>92</td> <td>2.9×10¹</td> <td>1.5×10⁻²</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑪</td> <td>12500(L)</td> <td>—</td> <td>100^{※2}</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>3.5×10⁰ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td>1405(L)</td> <td>—</td> <td>100^{※2}</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>3.9×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td>2800(L)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>6.2×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑭</td> <td>576(L)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>1.3×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑮</td> <td>91000(L) 2625000(L)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1688.17</td> <td>1689^{※4}</td> <td>2.7×10¹</td> <td>2.9×10¹</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑯</td> <td>574(L)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—^{※6}</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>1.3×10⁻¹ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td>6.4(m³)</td> <td>—</td> <td>100^{※2}</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>1.8×10⁻³ ^{※7}</td> </tr> <tr> <td>硫化水素⑱</td> <td>6.4(m³)</td> <td>—</td> <td>100^{※2}</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1.0×10⁰</td> <td>1.8×10⁻³ ^{※7}</td> </tr> </tbody> </table>	敷地内	固定源	貯蔵量	蒸発率等評価条件				放出継続 時間(h)	蒸発率等 (kg/s)	薬品濃度(wt%)		堰面積(m ²)		届出情報	評価条件	届出情報	評価条件	敷地外	溶融炉 アンモニア タンク	1.0(m ³)	25	26 ^{※1}	8	8	8.8×10 ⁻¹	8.2×10 ⁻²	アンモニア①	10000(kg)	25	25	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	6.9×10 ⁻¹ ^{※7}	塩酸①-1	5000(kg)	35	35	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	4.9×10 ⁻¹ ^{※7}	塩酸①-2	9450(kg)	35	35	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	9.2×10 ⁻¹ ^{※7}	アンモニア②	2000(kg)	10	10	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	5.6×10 ⁻² ^{※7}	アンモニア③	150000(kg) ×2基	99	99	292	— ^{※5}	1.0×10 ⁰	8.3×10 ¹ ^{※7}	塩酸③-1	22420(kg) ×2基	35	35	129	129	3.2×10 ¹	1.4×10 ⁻¹	塩酸③-2	44840(kg)	35	35	148	148	2.8×10 ¹	1.5×10 ⁻¹	塩酸③-3	7080(kg)	35	35	25	25	2.4×10 ¹	2.9×10 ⁻²	アンモニア④	18(kg)	—	100 ^{※2}	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	5.0×10 ⁻³ ^{※7}	塩酸④-1	900(kg)	35	35	11.5	12 ^{※4}	4.9×10 ⁰	1.8×10 ⁻²	塩酸④-2	3000(L)	35	35	9	9	2.5×10 ¹	1.4×10 ⁻²	硝酸④	7000(kg)	62	62	12.8	13 ^{※4}	7.1×10 ²	1.7×10 ⁻³	メタノール④	3000(L)	50	50	9	9	3.5×10 ²	1.2×10 ⁻³	アンモニア⑤	11.28(t)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	3.1×10 ⁰ ^{※7}	アンモニア⑥	1800(kg)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	5.0×10 ⁻¹ ^{※7}	アンモニア⑦	800(kg)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	2.2×10 ⁻¹ ^{※7}	塩酸⑧-1	2400(kg)	35	35	8.8	9 ^{※4}	1.7×10 ¹	1.4×10 ⁻²	塩酸⑧-2	1180(kg)	35	35	10	10	7.4×10 ⁰	1.5×10 ⁻²	塩酸⑧-3	2000(kg)	35以上	37 ^{※3}	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	2.1×10 ⁻¹ ^{※7}	塩酸⑧-4	354(kg)	35以上	37 ^{※3}	0.64	1	9.5×10 ⁰	3.8×10 ⁻³	塩酸⑨-1	1180(kg)	35	35	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	1.1×10 ⁻¹ ^{※7}	塩酸⑨-2	3540(kg)	35	35	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	3.4×10 ⁻¹ ^{※7}	硝酸⑩-1	3.0(m ³)	67.5	68 ^{※4}	51	51	1.0×10 ²	8.9×10 ⁻³	硝酸⑩-2	1.5(m ³)	67.5	68 ^{※4}	92	92	2.9×10 ¹	1.5×10 ⁻²	メタノール⑪	12500(L)	—	100 ^{※2}	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	3.5×10 ⁰ ^{※7}	メタノール⑫	1405(L)	—	100 ^{※2}	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	3.9×10 ⁻¹ ^{※7}	ガソリン⑬	2800(L)	—	—	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	6.2×10 ⁻¹ ^{※7}	ガソリン⑭	576(L)	—	—	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	1.3×10 ⁻¹ ^{※7}	ガソリン⑮	91000(L) 2625000(L)	—	—	1688.17	1689 ^{※4}	2.7×10 ¹	2.9×10 ¹	ガソリン⑯	574(L)	—	—	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	1.3×10 ⁻¹ ^{※7}	塩化水素⑰	6.4(m ³)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	1.8×10 ⁻³ ^{※7}	硫化水素⑱	6.4(m ³)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	1.8×10 ⁻³ ^{※7}	<p>・スクリーニング評価の対象の相違 ・記載箇所の相違</p>
敷地外固定源		相対濃度評価条件								相対濃度 ^{※2} (s/m ³)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	距離 ^{※1} (m)	発生源から 評価点を見た方位	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出 継続時間 (h)	建屋影響																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
アンモニア①	6300	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.7×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
アンモニア②	6700	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.6×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
アンモニア③	2400	WNW	0.8	ESE	B	1	考慮しない	2.7×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
アンモニア④	6400	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.1×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
敷地外固定源	相対濃度評価条件							相対濃度 ^{※2} (s/m ³)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	距離 ^{※1} (m)	発生源から 評価点を見た方位	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出 継続時間 (h)	建屋影響																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
アンモニア①	5900	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.6×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
アンモニア②	6300	SE	2.8	NW	F	1	考慮しない	1.7×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
アンモニア③	3000	WNW	0.8	ESE	B	1	考慮しない	1.5×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
アンモニア④	6000	SSE	1.9	NNW	D	1	考慮しない	4.5×10 ^{-6※3}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
敷地内	固定源	貯蔵量	蒸発率等評価条件				放出継続 時間(h)	蒸発率等 (kg/s)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			薬品濃度(wt%)		堰面積(m ²)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
			届出情報	評価条件	届出情報	評価条件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
敷地外	溶融炉 アンモニア タンク	1.0(m ³)	25	26 ^{※1}	8	8	8.8×10 ⁻¹	8.2×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	アンモニア①	10000(kg)	25	25	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	6.9×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸①-1	5000(kg)	35	35	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	4.9×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸①-2	9450(kg)	35	35	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	9.2×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	アンモニア②	2000(kg)	10	10	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	5.6×10 ⁻² ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	アンモニア③	150000(kg) ×2基	99	99	292	— ^{※5}	1.0×10 ⁰	8.3×10 ¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸③-1	22420(kg) ×2基	35	35	129	129	3.2×10 ¹	1.4×10 ⁻¹																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸③-2	44840(kg)	35	35	148	148	2.8×10 ¹	1.5×10 ⁻¹																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸③-3	7080(kg)	35	35	25	25	2.4×10 ¹	2.9×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	アンモニア④	18(kg)	—	100 ^{※2}	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	5.0×10 ⁻³ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸④-1	900(kg)	35	35	11.5	12 ^{※4}	4.9×10 ⁰	1.8×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸④-2	3000(L)	35	35	9	9	2.5×10 ¹	1.4×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	硝酸④	7000(kg)	62	62	12.8	13 ^{※4}	7.1×10 ²	1.7×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	メタノール④	3000(L)	50	50	9	9	3.5×10 ²	1.2×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	アンモニア⑤	11.28(t)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	3.1×10 ⁰ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	アンモニア⑥	1800(kg)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	5.0×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	アンモニア⑦	800(kg)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	2.2×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸⑧-1	2400(kg)	35	35	8.8	9 ^{※4}	1.7×10 ¹	1.4×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸⑧-2	1180(kg)	35	35	10	10	7.4×10 ⁰	1.5×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	塩酸⑧-3	2000(kg)	35以上	37 ^{※3}	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	2.1×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
塩酸⑧-4	354(kg)	35以上	37 ^{※3}	0.64	1	9.5×10 ⁰	3.8×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
塩酸⑨-1	1180(kg)	35	35	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	1.1×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
塩酸⑨-2	3540(kg)	35	35	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	3.4×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
硝酸⑩-1	3.0(m ³)	67.5	68 ^{※4}	51	51	1.0×10 ²	8.9×10 ⁻³																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
硝酸⑩-2	1.5(m ³)	67.5	68 ^{※4}	92	92	2.9×10 ¹	1.5×10 ⁻²																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
メタノール⑪	12500(L)	—	100 ^{※2}	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	3.5×10 ⁰ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
メタノール⑫	1405(L)	—	100 ^{※2}	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	3.9×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ガソリン⑬	2800(L)	—	—	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	6.2×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ガソリン⑭	576(L)	—	—	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	1.3×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ガソリン⑮	91000(L) 2625000(L)	—	—	1688.17	1689 ^{※4}	2.7×10 ¹	2.9×10 ¹																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
ガソリン⑯	574(L)	—	—	—	— ^{※6}	1.0×10 ⁰	1.3×10 ⁻¹ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
塩化水素⑰	6.4(m ³)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	1.8×10 ⁻³ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
硫化水素⑱	6.4(m ³)	—	100 ^{※2}	—	—	1.0×10 ⁰	1.8×10 ⁻³ ^{※7}																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)		東海第二発電所 有毒ガス									差異理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">敷地内</th> <th rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目方位^{**8}</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気安定度</th> <th>実効放出継続時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>溶融炉アンモニアタンク</td> <td>145</td> <td>WNW</td> <td>3.8</td> <td>ENE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮する^{**9}</td> <td>1000</td> <td>3.5×10⁻⁴</td> </tr> <tr> <td rowspan="20">敷地外</td> <td>アンモニア①</td> <td>7300</td> <td>NE</td> <td>3.3</td> <td>SW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.2×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td>7300</td> <td>NE</td> <td>3.3</td> <td>SW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.2×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td>7300</td> <td>NE</td> <td>3.3</td> <td>SW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.2×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>7500</td> <td>NE</td> <td>3.3</td> <td>SW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.2×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>アンモニア③</td> <td>3300</td> <td>NNW</td> <td>1.4</td> <td>SSE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>6.1×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>塩酸③-1</td> <td>3300</td> <td>NNW</td> <td>1.4</td> <td>SSE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>6.1×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>塩酸③-2</td> <td>3300</td> <td>NNW</td> <td>1.4</td> <td>SSE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>6.1×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>塩酸③-3</td> <td>3300</td> <td>NNW</td> <td>1.4</td> <td>SSE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>6.1×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>アンモニア④</td> <td>5300</td> <td>E</td> <td>2.0</td> <td>W</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>2.9×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td>5300</td> <td>E</td> <td>2.3</td> <td>W</td> <td>E</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>9.6×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td>5300</td> <td>E</td> <td>2.3</td> <td>W</td> <td>E</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>9.6×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td>5300</td> <td>E</td> <td>1.7</td> <td>W</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>3.4×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td>5300</td> <td>E</td> <td>1.1</td> <td>W</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>5.3×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td>5300</td> <td>E</td> <td>2.0</td> <td>W</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>2.9×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑥</td> <td>9300</td> <td>SSW</td> <td>4.0</td> <td>NNE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.1×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑦</td> <td>7800</td> <td>SSW</td> <td>4.0</td> <td>NNE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.4×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-1</td> <td>720</td> <td>ENE</td> <td>1.8</td> <td>WSW</td> <td>A</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>5.6×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td>720</td> <td>ENE</td> <td>1.8</td> <td>WSW</td> <td>A</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>5.6×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td>720</td> <td>ENE</td> <td>1.8</td> <td>WSW</td> <td>A</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>5.6×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td>720</td> <td>ENE</td> <td>1.8</td> <td>WSW</td> <td>A</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>5.6×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-1</td> <td>8900</td> <td>ENE</td> <td>3.6</td> <td>WSW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>9.0×10⁻⁸</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td>8900</td> <td>ENE</td> <td>3.6</td> <td>WSW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>9.0×10⁻⁸</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-1</td> <td>4500</td> <td>ESE</td> <td>1.5</td> <td>WNW</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>4.9×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-2</td> <td>4500</td> <td>ESE</td> <td>1.5</td> <td>WNW</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>4.9×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑪</td> <td>7000</td> <td>NNE</td> <td>3.7</td> <td>SSW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.1×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td>8900</td> <td>ENE</td> <td>3.6</td> <td>WSW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>9.0×10⁻⁸</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td>1100</td> <td>E</td> <td>2.0</td> <td>W</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>2.9×10⁻⁴</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑭</td> <td>5100</td> <td>NNE</td> <td>3.7</td> <td>SSW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.5×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑮</td> <td>4200</td> <td>SSW</td> <td>4.5</td> <td>NNE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>3.3×10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑯</td> <td>7500</td> <td>ENE</td> <td>3.6</td> <td>WSW</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>1.1×10⁻⁷</td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td>5500</td> <td>E</td> <td>2.0</td> <td>W</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>2.8×10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>硫化水素⑰</td> <td>5500</td> <td>E</td> <td>2.0</td> <td>W</td> <td>F</td> <td>1</td> <td>考慮せず</td> <td>設定せず</td> <td>2.8×10⁻⁵</td> </tr> </tbody> </table>									敷地内	固定源	相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目方位 ^{**8}	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)		溶融炉アンモニアタンク	145	WNW	3.8	ENE	D	1	考慮する ^{**9}	1000	3.5×10 ⁻⁴	敷地外	アンモニア①	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷	塩酸①-1	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷	塩酸①-2	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷	アンモニア②	7500	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷	アンモニア③	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10 ⁻⁷	塩酸③-1	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10 ⁻⁷	塩酸③-2	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10 ⁻⁷	塩酸③-3	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10 ⁻⁷	アンモニア④	5300	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10 ⁻⁵	塩酸④-1	5300	E	2.3	W	E	1	考慮せず	設定せず	9.6×10 ⁻⁶	塩酸④-2	5300	E	2.3	W	E	1	考慮せず	設定せず	9.6×10 ⁻⁶	硝酸④	5300	E	1.7	W	F	1	考慮せず	設定せず	3.4×10 ⁻⁵	メタノール④	5300	E	1.1	W	F	1	考慮せず	設定せず	5.3×10 ⁻⁵	アンモニア⑤	5300	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10 ⁻⁵	アンモニア⑥	9300	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁶	アンモニア⑦	7800	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.4×10 ⁻⁶	塩酸⑧-1	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁶	塩酸⑧-2	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁶	塩酸⑧-3	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁶	塩酸⑧-4	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁶	塩酸⑨-1	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸	塩酸⑨-2	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸	硝酸⑩-1	4500	ESE	1.5	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	4.9×10 ⁻⁵	硝酸⑩-2	4500	ESE	1.5	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	4.9×10 ⁻⁵	メタノール⑪	7000	NNE	3.7	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁷	メタノール⑫	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸	ガソリン⑬	1100	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10 ⁻⁴	ガソリン⑭	5100	NNE	3.7	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.5×10 ⁻⁷	ガソリン⑮	4200	SSW	4.5	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	3.3×10 ⁻⁶	ガソリン⑯	7500	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁷	塩化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10 ⁻⁵	硫化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10 ⁻⁵	・スクリーニング評価の対象の相違
敷地内	固定源	相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		距離 (m)	着目方位 ^{**8}	風速 (m/s)	風向	大気安定度	実効放出継続時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	溶融炉アンモニアタンク	145	WNW	3.8	ENE	D	1	考慮する ^{**9}	1000	3.5×10 ⁻⁴																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
敷地外	アンモニア①	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸①-1	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸①-2	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	アンモニア②	7500	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	アンモニア③	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸③-1	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸③-2	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸③-3	3300	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	6.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	アンモニア④	5300	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸④-1	5300	E	2.3	W	E	1	考慮せず	設定せず	9.6×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸④-2	5300	E	2.3	W	E	1	考慮せず	設定せず	9.6×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	硝酸④	5300	E	1.7	W	F	1	考慮せず	設定せず	3.4×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	メタノール④	5300	E	1.1	W	F	1	考慮せず	設定せず	5.3×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	アンモニア⑤	5300	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	アンモニア⑥	9300	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	アンモニア⑦	7800	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.4×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸⑧-1	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸⑧-2	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸⑧-3	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	塩酸⑧-4	720	ENE	1.8	WSW	A	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
塩酸⑨-1	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
塩酸⑨-2	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
硝酸⑩-1	4500	ESE	1.5	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	4.9×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
硝酸⑩-2	4500	ESE	1.5	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	4.9×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
メタノール⑪	7000	NNE	3.7	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
メタノール⑫	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
ガソリン⑬	1100	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10 ⁻⁴																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
ガソリン⑭	5100	NNE	3.7	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.5×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
ガソリン⑮	4200	SSW	4.5	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	3.3×10 ⁻⁶																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
ガソリン⑯	7500	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁷																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
塩化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
硫化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10 ⁻⁵																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	<p>※1 敷地内固定源のアンモニアについては、薬品濃度が25%であるが、運用に余裕を見込んだ値としてスクリーニング評価では26%と設定した。</p> <p>※2 届出情報が得られなかった薬品濃度は、スクリーニング評価では100%と設定した。</p> <p>※3 塩酸の薬品濃度が35%以上となっているものについては、JIS（日本産業規格）により、塩酸の薬品濃度規格値が35.0%～37.0%と定められているため、スクリーニング評価では37%と設定した。</p> <p>※4 スクリーニング評価時に、薬品濃度及び堰面積については小数第一位を切り上げた値とした。</p> <p>※5 届出情報から堰面積が得られたものの、薬品濃度99%のアンモニアは常温常圧で気体と考えられるため、防液堤を考慮せず1時間で全量放出するとしてスクリーニング評価を実施した。</p> <p>※6 堰面積の届出情報が得られなかったものについては、防液堤を考慮せず1時間で全量放出するとしてスクリーニング評価を実施した。</p> <p>※7 ガス状の固定源としてスクリーニング評価を行うため放出率（kg/s）を設定</p> <p>※8 発生源から評価点を見た方位</p> <p>※9 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

第5表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (2/7)

(緊急時対策所)

固定源	蒸発率等評価条件						蒸発率等 (kg/s)	
	貯蔵量	薬品濃度 (wt%)		堰面積 (m ²)		放出継続 時間 (h)		
		届出情報	評価条件	届出情報	評価条件			
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0 (m ³)	25	26 ^{*1}	8	8	9.4×10 ⁻¹	7.7×10 ⁻²
敷地外	アンモニア①	10000 (kg)	25	25	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	6.9×10 ⁻¹ ^{*7}
	塩酸①-1	5000 (kg)	35	35	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	4.9×10 ⁻¹ ^{*7}
	塩酸①-2	9450 (kg)	35	35	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	9.2×10 ⁻¹ ^{*7}
	アンモニア②	2000 (kg)	10	10	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	5.6×10 ⁻² ^{*7}
	アンモニア③	150000 (kg) ×2基	99	99	292	— ^{*5}	1.0×10 ⁰	8.3×10 ¹ ^{*7}
	塩酸③-1	22420 (kg) ×2基	35	35	129	129	3.2×10 ¹	1.4×10 ⁻¹
	塩酸③-2	44840 (kg)	35	35	148	148	2.8×10 ¹	1.6×10 ⁻¹
	塩酸③-3	7080 (kg)	35	35	25	25	2.4×10 ¹	2.9×10 ⁻²
	アンモニア④	18 (kg)	—	100 ^{*2}	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	5.0×10 ⁻³ ^{*7}
	塩酸④-1	900 (kg)	35	35	11.5	12 ^{*4}	4.9×10 ⁰	1.8×10 ⁻²
	塩酸④-2	3000 (L)	35	35	9	9	2.5×10 ¹	1.4×10 ⁻²
	硝酸④	7000 (kg)	62	62	12.8	13 ^{*4}	7.1×10 ²	1.7×10 ⁻³
	メタノール④	3000 (L)	50	50	9	9	3.5×10 ²	1.2×10 ⁻³
	アンモニア⑤	11.28 (t)	—	100 ^{*2}	—	—	1.0×10 ⁰	3.1×10 ⁰ ^{*7}
	アンモニア⑥	1800 (kg)	—	100 ^{*2}	—	—	1.0×10 ⁰	5.0×10 ⁻¹ ^{*7}
	アンモニア⑦	800 (kg)	—	100 ^{*2}	—	—	1.0×10 ⁰	2.2×10 ⁻¹ ^{*7}
	塩酸⑧-1	2400 (kg)	35	35	8.8	9 ^{*4}	6.0×10 ¹	3.9×10 ⁻³
	塩酸⑧-2	1180 (kg)	35	35	10	10	2.7×10 ¹	4.3×10 ⁻³
	塩酸⑧-3	2000 (kg)	35以上	37 ^{*3}	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	2.1×10 ⁻¹ ^{*7}
	塩酸⑧-4	354 (kg)	35以上	37 ^{*3}	0.64	1	3.4×10 ¹	1.1×10 ⁻³
塩酸⑨-1	1180 (kg)	35	35	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	1.1×10 ⁻¹ ^{*7}	
塩酸⑨-2	3540 (kg)	35	35	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	3.4×10 ⁻¹ ^{*7}	
硝酸⑩-1	3.0 (m ³)	67.5	68 ^{*4}	51	51	1.0×10 ²	8.9×10 ⁻³	
硝酸⑩-2	1.5 (m ³)	67.5	68 ^{*4}	92	92	2.9×10 ¹	1.5×10 ⁻²	
メタノール⑪	12500 (L)	—	100 ^{*2}	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	3.5×10 ⁰ ^{*7}	
メタノール⑫	1405 (L)	—	100 ^{*2}	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	3.9×10 ⁻¹ ^{*7}	
ガソリン⑬	2800 (L)	—	—	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	6.2×10 ⁻¹ ^{*7}	
ガソリン⑭	576 (L)	—	—	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	1.3×10 ⁻¹ ^{*7}	
ガソリン⑮	910000 (L) 2625000 (L)	—	—	1688.17	1689 ^{*4}	2.7×10 ¹	2.9×10 ¹	
ガソリン⑯	574 (L)	—	—	—	— ^{*6}	1.0×10 ⁰	1.3×10 ⁻¹ ^{*7}	
塩化水素⑰	6.4 (m ³)	—	100 ^{*2}	—	—	1.0×10 ⁰	1.8×10 ⁻³ ^{*7}	
硫化水素⑱	6.4 (m ³)	—	100 ^{*2}	—	—	1.0×10 ⁰	1.8×10 ⁻³ ^{*7}	

・スクリーニング評価の対象の相違

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)		東海第二発電所 有毒ガス									差異理由
		相対濃度評価条件									
		固定源	距離 (m)	着目 方位 ^{※8}	風速 (m/s)	風 向	大 気 安 定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	480	W	5.4	ENE	D	1	考慮する ^{※9}	3000	5.1×10 ⁻⁵	・スクリーニング評価の対象の相違
敷地外	アンモニア①	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷	
	塩酸①-1	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷	
	塩酸①-2	7300	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷	
	アンモニア②	7500	NE	3.3	SW	B	1	考慮せず	設定せず	1.2×10 ⁻⁷	
	アンモニア③	3400	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁷	
	塩酸③-1	3400	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁷	
	塩酸③-2	3400	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁷	
	塩酸③-3	3400	NNW	1.4	SSE	B	1	考慮せず	設定せず	5.6×10 ⁻⁷	
	アンモニア④	5300	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10 ⁻⁵	
	塩酸④-1	5300	E	2.3	W	E	1	考慮せず	設定せず	9.6×10 ⁻⁶	
	塩酸④-2	5300	E	2.3	W	E	1	考慮せず	設定せず	9.6×10 ⁻⁶	
	硝酸④	5300	E	1.7	W	F	1	考慮せず	設定せず	3.4×10 ⁻⁵	
	メタノール④	5300	E	1.1	W	F	1	考慮せず	設定せず	5.3×10 ⁻⁵	
	アンモニア⑤	5300	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.9×10 ⁻⁵	
	アンモニア⑥	9300	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁶	
	アンモニア⑦	7800	SSW	4.0	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	1.4×10 ⁻⁶	
	塩酸⑧-1	440	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	3.1×10 ⁻⁵	
塩酸⑧-2	440	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	3.1×10 ⁻⁵		
塩酸⑧-3	440	NE	1.8	SW	A	1	考慮せず	設定せず	2.7×10 ⁻⁵		
塩酸⑧-4	440	NE	1.6	SW	A	1	考慮せず	設定せず	3.1×10 ⁻⁵		
塩酸⑨-1	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸		
塩酸⑨-2	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸		
硝酸⑩-1	4500	ESE	1.5	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	4.9×10 ⁻⁵		
硝酸⑩-2	4500	ESE	1.5	WNW	F	1	考慮せず	設定せず	4.9×10 ⁻⁵		
メタノール⑪	7000	NNE	3.7	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁷		
メタノール⑫	8900	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	9.0×10 ⁻⁸		
ガソリン⑬	840	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	4.5×10 ⁻⁴		
ガソリン⑭	5100	NNE	3.7	SSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.5×10 ⁻⁷		
ガソリン⑮	4200	SSW	4.5	NNE	D	1	考慮せず	設定せず	3.3×10 ⁻⁶		
ガソリン⑯	7500	ENE	3.6	WSW	B	1	考慮せず	設定せず	1.1×10 ⁻⁷		
塩化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10 ⁻⁵		
硫化水素⑰	5500	E	2.0	W	F	1	考慮せず	設定せず	2.8×10 ⁻⁵		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	<p>※1 敷地内固定源のアンモニアについては、薬品濃度が25%であるが、運用に余裕を見込んだ値としてスクリーニング評価では26%と設定した。</p> <p>※2 届出情報が得られなかった薬品濃度は、スクリーニング評価では100%と設定した。</p> <p>※3 塩酸の薬品濃度が35%以上となっているものについては、JIS（日本産業規格）により、塩酸の薬品濃度規格値が35.0%～37.0%と定められているため、スクリーニング評価では37%と設定した。</p> <p>※4 スクリーニング評価時に、薬品濃度及び堰面積については小数第一位を切り上げた値とした。</p> <p>※5 届出情報から堰面積が得られたものの、薬品濃度99%のアンモニアは常温常圧で気体と考えられるため、防液堤を考慮せず1時間で全量放出するとしてスクリーニング評価を実施した。</p> <p>※6 堰面積の届出情報が得られなかったものについては、防液堤を考慮せず1時間で全量放出するとしてスクリーニング評価を実施した。</p> <p>※7 ガス状の固定源としてスクリーニング評価を行うため放出率（kg/s）を設定</p> <p>※8 発生源から評価点を見た方位</p> <p>※9 巻き込みを生じる代表建屋を「原子炉建屋」とする。</p>	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																															
<p>第5表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (3/7)</p> <p>(東側接続口①)</p> <table border="1" data-bbox="1347 464 2510 625"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>8.8 × 10⁻¹</td> <td>8.2 × 10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1347 688 2510 953"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目 方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気 安定 度</th> <th>実効 放出 継続 時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>95</td> <td>NW</td> <td>2.0</td> <td>SE</td> <td>B</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>4.9 × 10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p>		固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	8.8 × 10 ⁻¹	8.2 × 10 ⁻²	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	95	NW	2.0	SE	B	1	考慮する ※2	1000	4.9 × 10 ⁻⁴	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源				蒸発率等評価条件					蒸発率等 (kg/s)																																								
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																												
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	8.8 × 10 ⁻¹	8.2 × 10 ⁻²																																											
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																								
		距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																							
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	95	NW	2.0	SE	B	1	考慮する ※2	1000	4.9 × 10 ⁻⁴																																							
<p>第5表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (4/7)</p> <p>(東側接続口②)</p> <table border="1" data-bbox="1347 1283 2510 1444"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>6.4 × 10⁻¹</td> <td>1.1 × 10⁻¹</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1347 1507 2510 1772"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目 方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気 安定 度</th> <th>実効 放出 継続 時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>85</td> <td>WNW</td> <td>4.1</td> <td>NE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>4.1 × 10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p>		固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	6.4 × 10 ⁻¹	1.1 × 10 ⁻¹	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	85	WNW	4.1	NE	D	1	考慮する ※2	1000	4.1 × 10 ⁻⁴	
固定源				蒸発率等評価条件					蒸発率等 (kg/s)																																								
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																												
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	6.4 × 10 ⁻¹	1.1 × 10 ⁻¹																																											
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																								
		距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																							
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	85	WNW	4.1	NE	D	1	考慮する ※2	1000	4.1 × 10 ⁻⁴																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																															
<p>第5表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (5/7)</p> <p>(高所東側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1353 470 2504 630"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>7.4×10⁻¹</td> <td>9.8×10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1353 688 2504 949"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目 方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気 安定 度</th> <th>実効 放出 継続 時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>230</td> <td>WSW</td> <td>4.1</td> <td>NE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>2.3×10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p>		固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	7.4×10 ⁻¹	9.8×10 ⁻²	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	230	WSW	4.1	NE	D	1	考慮する ※2	1000	2.3×10 ⁻⁴	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源				蒸発率等評価条件					蒸発率等 (kg/s)																																								
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																												
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	7.4×10 ⁻¹	9.8×10 ⁻²																																											
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																								
		距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																							
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	230	WSW	4.1	NE	D	1	考慮する ※2	1000	2.3×10 ⁻⁴																																							
<p>第5表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (6/7)</p> <p>(西側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1353 1276 2504 1436"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>3.7×10⁰</td> <td>2.0×10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1353 1499 2504 1759"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目 方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気 安定 度</th> <th>実効 放出 継続 時間 (h)</th> <th>建屋影響</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>溶融炉 アンモニア タンク</td> <td>150</td> <td>W</td> <td>0.7</td> <td>ESE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1400</td> <td>1.5×10⁻³</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p>		固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	3.7×10 ⁰	2.0×10 ⁻²	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響	投影面積 (m ²)	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	150	W	0.7	ESE	D	1	考慮する ※2	1400	1.5×10 ⁻³	
固定源				蒸発率等評価条件					蒸発率等 (kg/s)																																								
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																												
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	3.7×10 ⁰	2.0×10 ⁻²																																											
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																								
		距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響		投影面積 (m ²)																																							
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	150	W	0.7	ESE	D	1	考慮する ※2	1400	1.5×10 ⁻³																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																															
	<p style="text-align: center;">第5表 蒸発率等及び大気拡散評価の評価結果 (7/7)</p> <p style="text-align: center;">(高所西側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1353 390 2504 550"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="4">蒸発率等評価条件</th> <th rowspan="2">蒸発率等 (kg/s)</th> </tr> <tr> <th>貯蔵量 (m³)</th> <th>薬品濃度 (wt%)</th> <th>堰面積 (m²)</th> <th>放出継続時間 (h)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>熔融炉 アンモニア タンク</td> <td>1.0</td> <td>26</td> <td>8</td> <td>1.1×10⁰</td> <td>6.5×10⁻²</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1353 613 2504 869"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">固定源</th> <th colspan="7">相対濃度評価条件</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th> </tr> <tr> <th>距離 (m)</th> <th>着目 方位 ※2</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>風向</th> <th>大気 安定 度</th> <th>実効 放出 継続 時間 (h)</th> <th>建屋影響 ※2</th> <th>投影面積 (m²)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>敷地内</td> <td>熔融炉 アンモニア タンク</td> <td>280</td> <td>WSW</td> <td>2.7</td> <td>NE</td> <td>D</td> <td>1</td> <td>考慮する ※2</td> <td>1000</td> <td>2.8×10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 巻き込みを生じる代表建屋を「固体廃棄物作業建屋」とする。</p>	固定源		蒸発率等評価条件				蒸発率等 (kg/s)	貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)	敷地内	熔融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	1.1×10 ⁰	6.5×10 ⁻²	固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)	距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響 ※2	投影面積 (m ²)	敷地内	熔融炉 アンモニア タンク	280	WSW	2.7	NE	D	1	考慮する ※2	1000	2.8×10 ⁻⁴	<p>・スクリーニング評価の対象の相違</p>
固定源				蒸発率等評価条件					蒸発率等 (kg/s)																																								
		貯蔵量 (m ³)	薬品濃度 (wt%)	堰面積 (m ²)	放出継続時間 (h)																																												
敷地内	熔融炉 アンモニア タンク	1.0	26	8	1.1×10 ⁰	6.5×10 ⁻²																																											
固定源		相対濃度評価条件							相対濃度 (s/m ³)																																								
		距離 (m)	着目 方位 ※2	風速 (m/s)	風向	大気 安定 度	実効 放出 継続 時間 (h)	建屋影響 ※2		投影面積 (m ²)																																							
敷地内	熔融炉 アンモニア タンク	280	WSW	2.7	NE	D	1	考慮する ※2	1000	2.8×10 ⁻⁴																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	<p>8. 有毒ガス濃度の評価結果について</p> <p>固定源が液体状の発生源の場合は、蒸発率と相対濃度を用いて、外気濃度 (kg/m³) を(4-2-1)式にて算出する。また、固定源がガス状の発生源の場合又は液体状の発生源のうち、全量が1時間で放出するとしたものについては、放出率と相対濃度を用いて、外気濃度 (kg/m³) を(4-2-2)式にて算出する。これらの外気濃度 (kg/m³) は、年間毎時刻での外気濃度を小さい方から順に並べ、累積出現頻度97%に当たる値を用いる。</p> <p>有毒ガスの外気濃度 (ppm) の評価は(4-1)式を用いて算出する。それぞれの評価点における濃度は、外気濃度 (ppm) が保守的な値となるよう、温度 25℃として算出する。</p> $C_{ppm} = \frac{c}{M} \times 22.4 \times \frac{T}{273.15} \times 10^6 \quad \dots(4-1)$ $C = E_c \times \frac{\chi}{Q} \quad \dots(4-2-1) \text{ (液体状有毒化学物質の評価)}$ $C = q_{GW} \times \frac{\chi}{Q} \quad \dots(4-2-2) \text{ (ガス状有毒化学物質の評価)}$ <p>C_{ppm} : 外気濃度 (ppm) C : 外気濃度 (kg/m³) M : 物質のモル質量 (g/mol) T : 気温 (K) E_c : 蒸発率補正 (kg/s) q_{GW} : 質量放出率 (kg/s) $\frac{\chi}{Q}$: 相対濃度 (s/m³)</p> <p>有毒ガス濃度の評価においては、当該の外気濃度 (kg/m³) を小さい方から順に並べ、累積出現頻度97%に当たる値を用いて気温25℃の時の外気濃度 (ppm) を有毒ガス濃度の評価結果とした。</p> <p>評価の結果、隣接方位を含めた有毒ガス濃度の合算値が最大となる方位であっても、中央制御室外気取入口及び緊急時対策所外気取入口における有毒ガス防護判断基準値に対する割合の和が1より小さいことを確認した。また、重要操作地点の評価点においても、敷地内固定源のアンモニアの有毒ガス濃度が、アンモニアの有毒ガス防護判断基準値を超えないことを確認した。</p> <p>有毒ガス濃度の評価結果を第6表に、隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果のうち、中央制御室外気取入口における評価結果を第7表及び第55図に、緊急時対策所外気取入口における評価結果を第8表及び第56図に示す。</p>	<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)		東海第二発電所 有毒ガス					差異理由
		第6表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (1/7)					<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
		(中央制御室外気取入口)					
固定源		評価点から発生源を見た方位	蒸発率等 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果		
					評価点における有毒ガス濃度*2 (ppm)	防護判断基準値との比	
敷地内	溶融炉アンモニアタンク	ESE	8.2×10 ⁻²	3.5×10 ⁻⁴	4.1×10 ¹	1.4×10 ⁻¹	
敷地外	アンモニア①	SW	6.9×10 ⁻¹ ※2	1.2×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻¹	3.9×10 ⁻⁴	
	塩酸①-1	SW	4.9×10 ⁻¹ ※2	1.2×10 ⁻⁷	3.8×10 ⁻²	7.7×10 ⁻⁴	
	塩酸①-2	SW	9.2×10 ⁻¹ ※2	1.2×10 ⁻⁷	7.3×10 ⁻²	1.4×10 ⁻³	
	アンモニア②	SW	5.6×10 ⁻² ※2	1.2×10 ⁻⁷	9.2×10 ⁻³	3.1×10 ⁻⁵	
	アンモニア③	SSE	8.3×10 ¹ ※2	6.1×10 ⁻⁷	7.2×10 ¹	2.4×10 ⁻¹	
	塩酸③-1	SSE	1.4×10 ⁻¹	6.1×10 ⁻⁷	5.6×10 ⁻²	1.1×10 ⁻³	
	塩酸③-2	SSE	1.6×10 ⁻¹	6.1×10 ⁻⁷	6.3×10 ⁻²	1.3×10 ⁻³	
	塩酸③-3	SSE	2.9×10 ⁻²	6.1×10 ⁻⁷	1.2×10 ⁻²	2.4×10 ⁻⁴	
	アンモニア④	W	5.0×10 ⁻³ ※2	2.9×10 ⁻⁵	2.1×10 ⁻¹	7.0×10 ⁻⁴	
	塩酸④-1	W	1.8×10 ⁻²	9.6×10 ⁻⁶	1.2×10 ⁻¹	2.3×10 ⁻³	
	塩酸④-2	W	1.4×10 ⁻²	9.6×10 ⁻⁶	8.9×10 ⁻²	1.8×10 ⁻³	
	硝酸④	W	1.7×10 ⁻³	3.4×10 ⁻⁵	2.3×10 ⁻²	9.0×10 ⁻⁴	
	メタノール④	W	1.2×10 ⁻³	5.3×10 ⁻⁵	4.8×10 ⁻²	2.4×10 ⁻⁴	
	アンモニア⑤	W	3.1×10 ⁰ ※2	2.9×10 ⁻⁵	1.3×10 ²	4.4×10 ⁻¹	
	アンモニア⑥	NNE	5.0×10 ⁻¹ ※2	1.1×10 ⁻⁶	8.0×10 ⁻¹	2.7×10 ⁻³	
	アンモニア⑦	NNE	2.2×10 ⁻¹ ※2	1.4×10 ⁻⁶	4.6×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻³	
	塩酸⑧-1	WSW	1.4×10 ⁻²	5.6×10 ⁻⁶	5.2×10 ⁻²	1.0×10 ⁻³	
	塩酸⑧-2	WSW	1.5×10 ⁻²	5.6×10 ⁻⁶	5.8×10 ⁻²	1.2×10 ⁻³	
	塩酸⑧-3	WSW	2.1×10 ⁻¹ ※2	5.6×10 ⁻⁶	7.7×10 ⁻¹	1.5×10 ⁻²	
	塩酸⑧-4	WSW	3.8×10 ⁻³	5.6×10 ⁻⁶	1.4×10 ⁻²	2.9×10 ⁻⁴	
塩酸⑨-1	WSW	1.1×10 ⁻¹ ※2	9.0×10 ⁻⁸	7.0×10 ⁻³	1.4×10 ⁻⁴		
塩酸⑨-2	WSW	3.4×10 ⁻¹ ※2	9.0×10 ⁻⁸	2.1×10 ⁻²	4.2×10 ⁻⁴		
硝酸⑩-1	WNW	8.9×10 ⁻³	4.9×10 ⁻⁵	1.7×10 ⁻¹	6.7×10 ⁻³		
硝酸⑩-2	WNW	1.5×10 ⁻²	4.9×10 ⁻⁵	2.9×10 ⁻¹	1.2×10 ⁻²		
メタノール⑪	SSW	3.5×10 ⁰ ※2	1.1×10 ⁻⁷	2.9×10 ⁻¹	1.4×10 ⁻³		
メタノール⑫	WSW	3.9×10 ⁻¹ ※2	9.0×10 ⁻⁸	2.7×10 ⁻²	1.3×10 ⁻⁴		
ガソリン⑬	W	6.2×10 ⁻¹ ※2	2.9×10 ⁻⁴	5.7×10 ¹	8.2×10 ⁻²		
ガソリン⑭	SSW	1.3×10 ⁻¹ ※2	1.5×10 ⁻⁷	5.8×10 ⁻³	8.3×10 ⁻⁶		
ガソリン⑮	NNE	2.9×10 ¹	3.3×10 ⁻⁶	2.9×10 ¹	4.2×10 ⁻²		
ガソリン⑯	WSW	1.3×10 ⁻¹ ※2	1.1×10 ⁻⁷	4.2×10 ⁻³	6.0×10 ⁻⁶		
塩化水素⑰	W	1.8×10 ⁻³ ※2	2.8×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻³		
硫化水素⑱	W	1.8×10 ⁻³ ※2	2.8×10 ⁻⁵	5.4×10 ⁻²	1.1×10 ⁻²		
		<p>※1 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧における各有毒化学物質の体積分率。各有毒化学物質のモル質量は別紙8参照</p> <p>※2 ガス状の固定源であり放出率 (kg/s) を設定</p>					

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)		東海第二発電所 有毒ガス					差異理由
第6表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (2/7) (緊急時対策所外気取入口)							・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。
敷地内	固定源	評価点から発生源を見た方位	蒸発率等 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果		
					評価点における有毒ガス濃度*2 (ppm)	防護判断基準値との比	
	溶融炉アンモニアタンク	E	7.7×10^{-2}	5.1×10^{-5}	5.7×10^0	1.9×10^{-2}	
敷地外	アンモニア①	SW	6.9×10^{-1} ※2	1.2×10^{-7}	1.2×10^{-1}	3.9×10^{-4}	
	塩酸①-1	SW	4.9×10^{-1} ※2	1.2×10^{-7}	3.8×10^{-2}	7.7×10^{-4}	
	塩酸①-2	SW	9.2×10^{-1} ※2	1.2×10^{-7}	7.3×10^{-2}	1.4×10^{-3}	
	アンモニア②	SW	5.6×10^{-2} ※2	1.2×10^{-7}	9.2×10^{-3}	3.1×10^{-5}	
	アンモニア③	SSE	8.3×10^1 ※2	5.6×10^{-7}	6.6×10^1	2.2×10^{-1}	
	塩酸③-1	SSE	1.4×10^{-1}	5.6×10^{-7}	5.1×10^{-2}	1.0×10^{-3}	
	塩酸③-2	SSE	1.6×10^{-1}	5.6×10^{-7}	5.8×10^{-2}	1.2×10^{-3}	
	塩酸③-3	SSE	2.9×10^{-2}	5.6×10^{-7}	1.1×10^{-2}	2.2×10^{-4}	
	アンモニア④	W	5.0×10^{-3} ※2	2.9×10^{-5}	2.1×10^{-1}	7.0×10^{-4}	
	塩酸④-1	W	1.8×10^{-2}	9.6×10^{-6}	1.2×10^{-1}	2.3×10^{-3}	
	塩酸④-2	W	1.4×10^{-2}	9.6×10^{-6}	8.9×10^{-2}	1.8×10^{-3}	
	硝酸④	W	1.7×10^{-3}	3.4×10^{-5}	2.3×10^{-2}	9.0×10^{-4}	
	メタノール④	W	1.2×10^{-3}	5.3×10^{-5}	4.8×10^{-2}	2.4×10^{-4}	
	アンモニア⑤	W	3.1×10^0 ※2	2.9×10^{-5}	1.3×10^2	4.4×10^{-1}	
	アンモニア⑥	NNE	5.0×10^{-1} ※2	1.1×10^{-6}	8.0×10^{-1}	2.7×10^{-3}	
	アンモニア⑦	NNE	2.2×10^{-1} ※2	1.4×10^{-6}	4.6×10^{-1}	1.5×10^{-3}	
	塩酸⑧-1	SW	3.9×10^{-3}	3.1×10^{-5}	7.9×10^{-2}	1.6×10^{-3}	
	塩酸⑧-2	SW	4.3×10^{-3}	3.1×10^{-5}	8.8×10^{-2}	1.8×10^{-3}	
	塩酸⑧-3	SW	2.1×10^{-1} ※2	2.7×10^{-5}	3.8×10^0	7.5×10^{-2}	
	塩酸⑧-4	SW	1.1×10^{-3}	3.1×10^{-5}	2.2×10^{-2}	4.4×10^{-4}	
	塩酸⑨-1	WSW	1.1×10^{-1} ※2	9.0×10^{-8}	7.0×10^{-3}	1.4×10^{-4}	
	塩酸⑨-2	WSW	3.4×10^{-1} ※2	9.0×10^{-8}	2.1×10^{-2}	4.2×10^{-4}	
	硝酸⑩-1	WNW	8.9×10^{-3}	4.9×10^{-5}	1.7×10^{-1}	6.7×10^{-3}	
	硝酸⑩-2	WNW	1.5×10^{-2}	4.9×10^{-5}	2.9×10^{-1}	1.2×10^{-2}	
	メタノール⑪	SSW	3.5×10^0 ※2	1.1×10^{-7}	2.9×10^{-1}	1.4×10^{-3}	
	メタノール⑫	WSW	3.9×10^{-1} ※2	9.0×10^{-8}	2.7×10^{-2}	1.3×10^{-4}	
	ガソリン⑬	W	6.2×10^{-1} ※2	4.5×10^{-4}	8.7×10^1	1.2×10^{-1}	
ガソリン⑭	SSW	1.3×10^{-1} ※2	1.5×10^{-7}	5.8×10^{-3}	8.3×10^{-6}		
ガソリン⑮	NNE	2.9×10^1	3.3×10^{-6}	2.9×10^1	4.2×10^{-2}		
ガソリン⑯	WSW	1.3×10^{-1} ※2	1.1×10^{-7}	4.2×10^{-3}	6.0×10^{-6}		
塩化水素⑰	W	1.8×10^{-3} ※2	2.8×10^{-5}	5.4×10^{-2}	1.1×10^{-3}		
硫化水素⑰	W	1.8×10^{-3} ※2	2.8×10^{-5}	5.4×10^{-2}	1.1×10^{-2}		
※1 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧における各有毒化学物質の体積分率。各有毒化学物質のモル質量は別紙8参照 ※2 ガス状の固定源であり放出率 (kg/s) を設定							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																			
<p style="text-align: center;">第6表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (3/7)</p> <p style="text-align: center;">(東側接続口①)</p> <table border="1" data-bbox="1374 401 2496 632"><thead><tr><th rowspan="2">敷地内</th><th rowspan="2">固定源</th><th rowspan="2">着目方位^{※1}</th><th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th><th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th><th colspan="3">評価結果</th></tr><tr><th>評価点における有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th><th>防護判断基準値との比</th><th>評価</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>溶融炉アンモニアタンク</td><td>NW</td><td>8.2×10^{-2}</td><td>4.9×10^{-4}</td><td>5.8×10^1</td><td>1.9×10^{-1}</td><td>影響なし</td></tr></tbody></table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p>		敷地内	固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断基準値との比	評価		溶融炉アンモニアタンク	NW	8.2×10^{-2}	4.9×10^{-4}	5.8×10^1	1.9×10^{-1}	影響なし	<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
敷地内	固定源						着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果											
		評価点における有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断基準値との比	評価																	
	溶融炉アンモニアタンク	NW	8.2×10^{-2}	4.9×10^{-4}	5.8×10^1	1.9×10^{-1}	影響なし														
<p style="text-align: center;">第6表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (4/7)</p> <p style="text-align: center;">(東側接続口②)</p> <table border="1" data-bbox="1374 987 2496 1218"><thead><tr><th rowspan="2">敷地内</th><th rowspan="2">固定源</th><th rowspan="2">着目方位^{※1}</th><th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th><th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th><th colspan="3">評価結果</th></tr><tr><th>評価点における有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th><th>防護判断基準値との比</th><th>評価</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>溶融炉アンモニアタンク</td><td>WNW</td><td>1.1×10^{-1}</td><td>4.1×10^{-4}</td><td>6.6×10^1</td><td>2.2×10^{-1}</td><td>影響なし</td></tr></tbody></table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p>		敷地内	固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断基準値との比	評価		溶融炉アンモニアタンク	WNW	1.1×10^{-1}	4.1×10^{-4}	6.6×10^1	2.2×10^{-1}	影響なし	
敷地内	固定源						着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果											
		評価点における有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断基準値との比	評価																	
	溶融炉アンモニアタンク	WNW	1.1×10^{-1}	4.1×10^{-4}	6.6×10^1	2.2×10^{-1}	影響なし														
<p style="text-align: center;">第6表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (5/7)</p> <p style="text-align: center;">(高所東側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1374 1570 2496 1814"><thead><tr><th rowspan="2">敷地内</th><th rowspan="2">固定源</th><th rowspan="2">着目方位^{※1}</th><th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th><th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th><th colspan="3">評価結果</th></tr><tr><th>評価点における有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th><th>防護判断基準値との比</th><th>評価</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td>溶融炉アンモニアタンク</td><td>WSW</td><td>9.8×10^{-2}</td><td>2.3×10^{-4}</td><td>3.2×10^1</td><td>1.1×10^{-1}</td><td>影響なし</td></tr></tbody></table> <p>※1 発生源から評価点を見た方位 ※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p>		敷地内	固定源	着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断基準値との比	評価		溶融炉アンモニアタンク	WSW	9.8×10^{-2}	2.3×10^{-4}	3.2×10^1	1.1×10^{-1}	影響なし	
敷地内	固定源						着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果											
		評価点における有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断基準値との比	評価																	
	溶融炉アンモニアタンク	WSW	9.8×10^{-2}	2.3×10^{-4}	3.2×10^1	1.1×10^{-1}	影響なし														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																						
	<p data-bbox="1537 310 2320 346">第6表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (6/7)</p> <p data-bbox="1834 380 2024 415">(西側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1374 430 2487 659"><thead><tr><th colspan="2" rowspan="2">固定源</th><th rowspan="2">着目方位^{※1}</th><th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th><th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th><th colspan="3">評価結果</th></tr><tr><th>評価点における 有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th><th>防護判断 基準値 との比</th><th>評価</th></tr></thead><tbody><tr><td>敷地内</td><td>溶融炉 アンモニア タンク</td><td>W</td><td>2.0×10^{-2}</td><td>1.5×10^{-3}</td><td>4.1×10^1</td><td>1.4×10^{-1}</td><td>影響なし</td></tr></tbody></table> <p data-bbox="1383 674 1834 701">※1 発生源から評価点を見た方位</p> <p data-bbox="1383 716 2415 785">※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p> <p data-bbox="1537 894 2320 930">第6表 固定源による有毒ガス影響評価結果 (7/7)</p> <p data-bbox="1804 963 2053 999">(高所西側接続口)</p> <table border="1" data-bbox="1383 1014 2481 1243"><thead><tr><th colspan="2" rowspan="2">固定源</th><th rowspan="2">着目方位^{※1}</th><th rowspan="2">蒸発率 (kg/s)</th><th rowspan="2">相対濃度 (s/m³)</th><th colspan="3">評価結果</th></tr><tr><th>評価点における 有毒ガス濃度^{※2} (ppm)</th><th>防護判断 基準値 との比</th><th>評価</th></tr></thead><tbody><tr><td>敷地内</td><td>溶融炉 アンモニア タンク</td><td>WSW</td><td>6.5×10^{-2}</td><td>2.8×10^{-4}</td><td>2.7×10^1</td><td>8.9×10^{-2}</td><td>影響なし</td></tr></tbody></table> <p data-bbox="1383 1257 1834 1285">※1 発生源から評価点を見た方位</p> <p data-bbox="1383 1299 2415 1369">※2 外気取入口における濃度。25℃ (298.15K) , 1気圧におけるアンモニア (モル質量 17.0g/mol) の体積分率</p>	固定源		着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	W	2.0×10^{-2}	1.5×10^{-3}	4.1×10^1	1.4×10^{-1}	影響なし	固定源		着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果			評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価	敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	WSW	6.5×10^{-2}	2.8×10^{-4}	2.7×10^1	8.9×10^{-2}	影響なし	<p data-bbox="2555 275 2881 390">・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
固定源							着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果																														
		評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価																																				
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	W	2.0×10^{-2}	1.5×10^{-3}	4.1×10^1	1.4×10^{-1}	影響なし																																	
固定源		着目方位 ^{※1}	蒸発率 (kg/s)	相対濃度 (s/m ³)	評価結果																																			
					評価点における 有毒ガス濃度 ^{※2} (ppm)	防護判断 基準値 との比	評価																																	
敷地内	溶融炉 アンモニア タンク	WSW	6.5×10^{-2}	2.8×10^{-4}	2.7×10^1	8.9×10^{-2}	影響なし																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

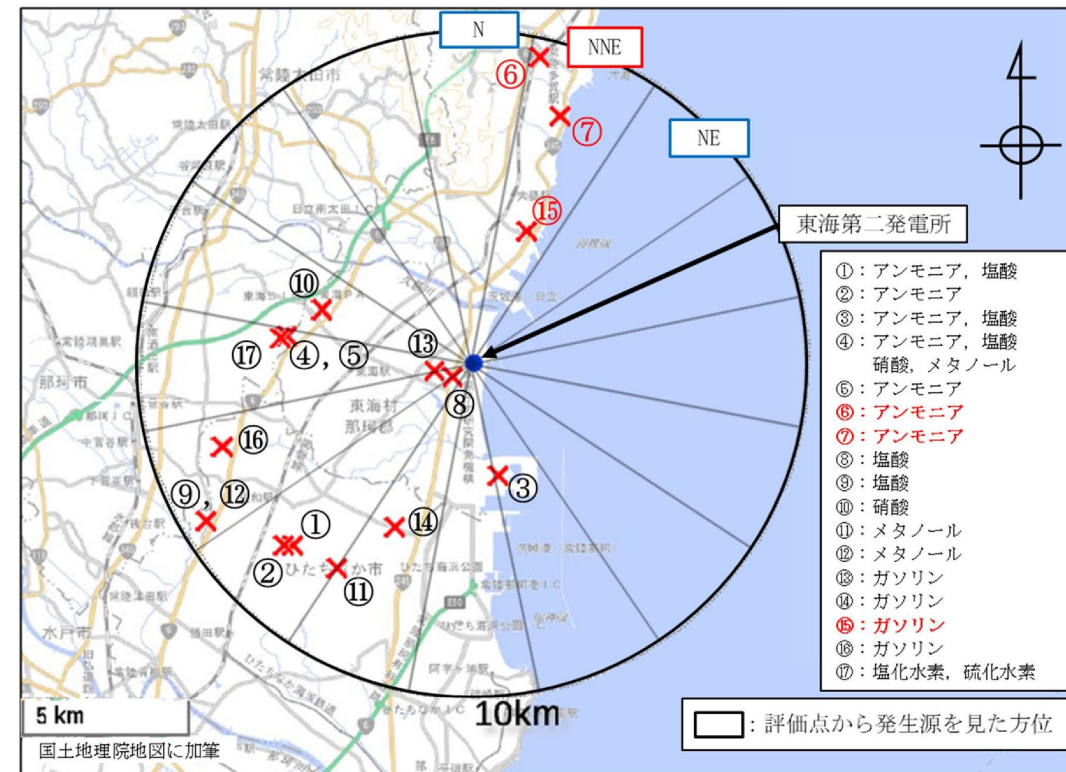
第7表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (1/8)
(評価点：中央制御室外気取入口 着目方位：NNE)

評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価
			※1			
中央制御室	N	—	—		4.7 × 10 ⁻²	影響なし
	NNE	アンモニア⑥	2.7 × 10 ⁻³	4.6 × 10 ⁻²		
		アンモニア⑦	1.5 × 10 ⁻³			
		ガソリン⑮	4.2 × 10 ⁻²			
NE	—	—				

※1 固定源がない方位に“—”を記載

※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載

・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。



第55図 評価点から発生源を見た方位 (1/8)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

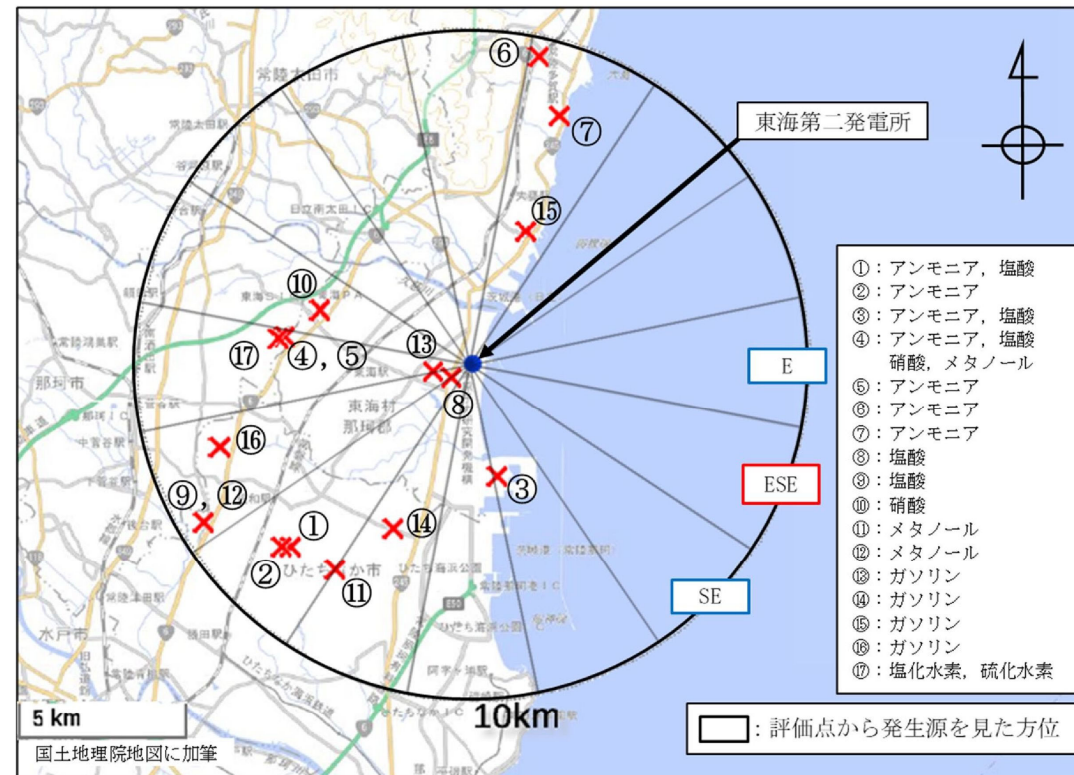
差異理由

第7表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (2/8)
(評価点：中央制御室外気取入口 着目方位：ESE)

評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価
中央制御室	E	-	-	1.4 × 10 ⁻¹	影響なし
	ESE	アンモニア (敷地内)	1.4 × 10 ⁻¹		
	SE	-	-		

※1 固定源がない方位に“-”を記載

※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載



第55図 評価点から発生源を見た方位 (2/8)

・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

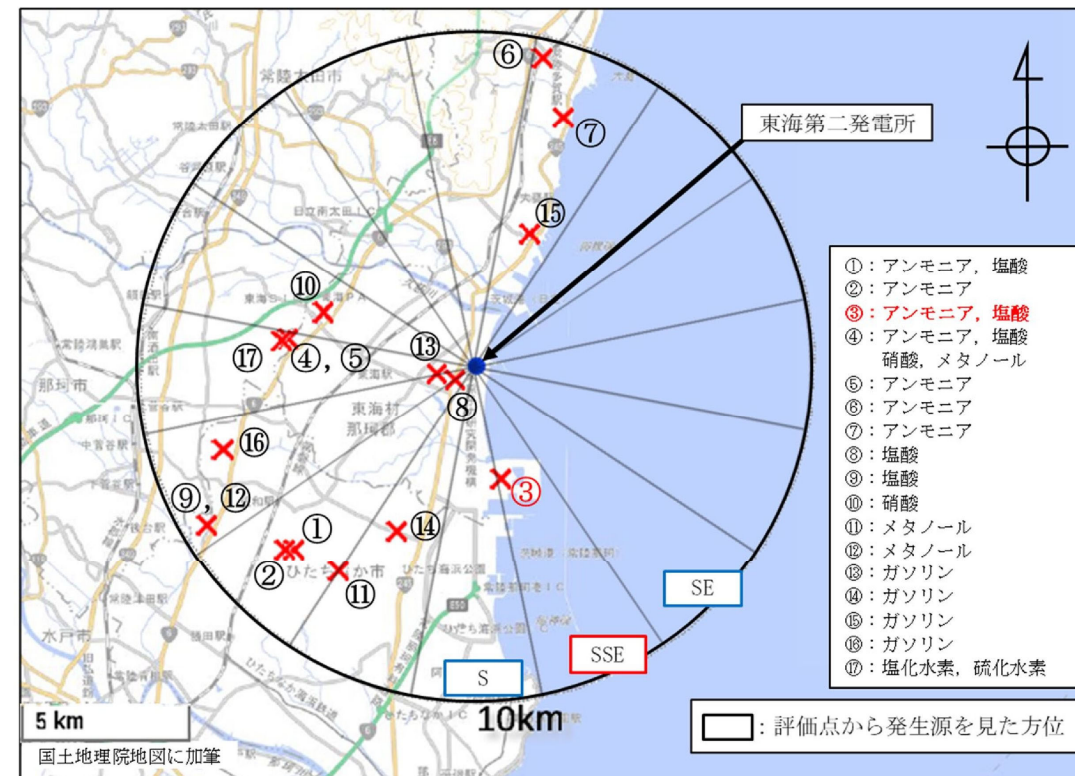
第7表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (3/8)
(評価点：中央制御室外気取入口 着目方位：SSE)

評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価
中央制御室	SE	-	-		2.5 × 10 ⁻¹	影響なし
	SSE	アンモニア③	2.4 × 10 ⁻¹	2.4 × 10 ⁻¹		
		塩酸③-1	1.1 × 10 ⁻³			
		塩酸③-2	1.3 × 10 ⁻³			
		塩酸③-3	2.4 × 10 ⁻⁴			
S	-	-				

※1 固定源がない方位に“-”を記載

※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載

・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。



第55図 評価点から発生源を見た方位 (3/8)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

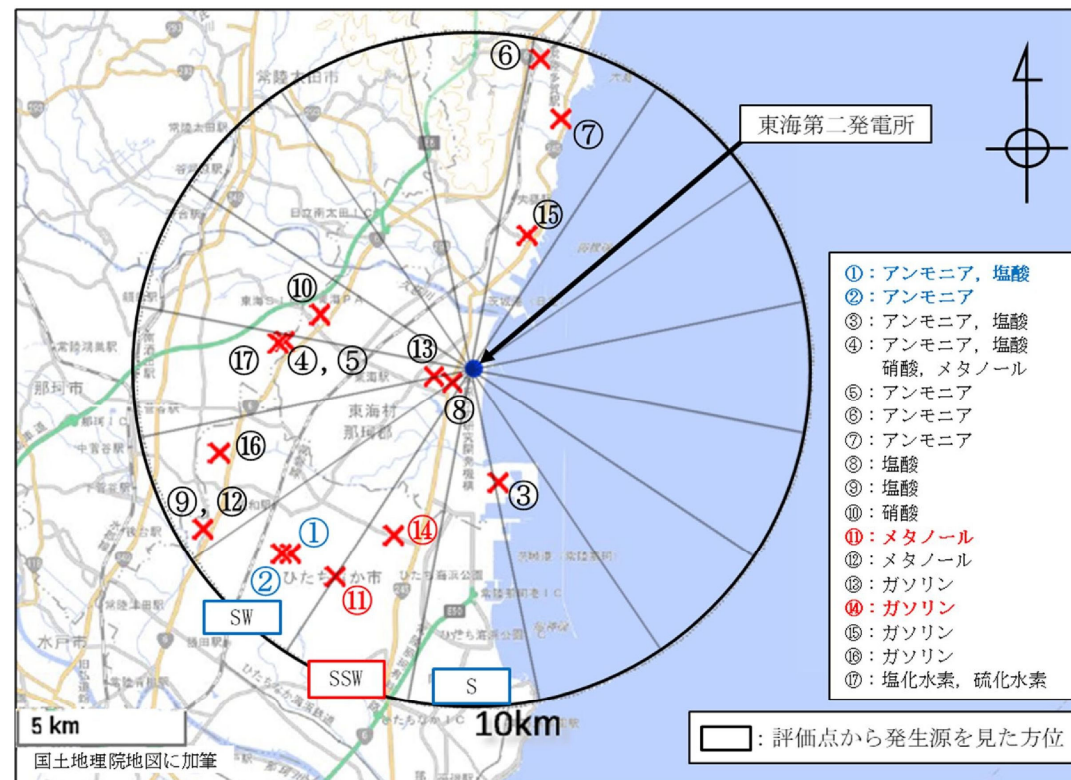
第7表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (4/8)
(評価点：中央制御室外気取入口 着目方位：SSW)

評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比※1		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価
中央制御室	S	—	—		4.1 × 10 ⁻³	影響なし
	SSW	メタノール⑩	1.4 × 10 ⁻³	1.5 × 10 ⁻³		
		ガソリン⑭	8.3 × 10 ⁻⁶			
	SW	アンモニア①	3.9 × 10 ⁻⁴	2.6 × 10 ⁻³		
		塩酸①-1	7.7 × 10 ⁻⁴			
		塩酸①-2	1.4 × 10 ⁻³			
アンモニア②		3.1 × 10 ⁻⁵				

※1 固定源がない方位に“—”を記載

※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載

・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。



第55図 評価点から発生源を見た方位 (4/8)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																												
	<p style="text-align: center;">第7表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (5/8) (評価点：中央制御室外気取入口 着目方位：SW)</p> <table border="1" data-bbox="1362 390 2496 1094"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価点から固定源を見た方位</th> <th>固定源</th> <th colspan="2">当該方位における防護判断基準値との比 ※1</th> <th>隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">中央 制御室</td> <td rowspan="2">SSW</td> <td>メタノール⑩</td> <td>1.4×10^{-3}</td> <td rowspan="2">1.5×10^{-3}</td> <td rowspan="14">2.3×10^{-2}</td> <td rowspan="14">影響なし</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑭</td> <td>8.3×10^{-6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">SW</td> <td>アンモニア①</td> <td>3.9×10^{-4}</td> <td rowspan="4">2.6×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td>7.7×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td>1.4×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>3.1×10^{-5}</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">WSW</td> <td>塩酸⑧-1</td> <td>1.0×10^{-3}</td> <td rowspan="8">1.9×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td>1.2×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td>1.5×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td>2.9×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-1</td> <td>1.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td>4.2×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td>1.3×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑮</td> <td>6.0×10^{-6}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“-”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価	中央 制御室	SSW	メタノール⑩	1.4×10^{-3}	1.5×10^{-3}	2.3×10^{-2}	影響なし	ガソリン⑭	8.3×10^{-6}	SW	アンモニア①	3.9×10^{-4}	2.6×10^{-3}	塩酸①-1	7.7×10^{-4}	塩酸①-2	1.4×10^{-3}	アンモニア②	3.1×10^{-5}	WSW	塩酸⑧-1	1.0×10^{-3}	1.9×10^{-2}	塩酸⑧-2	1.2×10^{-3}	塩酸⑧-3	1.5×10^{-2}	塩酸⑧-4	2.9×10^{-4}	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}	メタノール⑫	1.3×10^{-4}	ガソリン⑮	6.0×10^{-6}	<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価																																								
中央 制御室	SSW	メタノール⑩	1.4×10^{-3}	1.5×10^{-3}	2.3×10^{-2}	影響なし																																								
		ガソリン⑭	8.3×10^{-6}																																											
	SW	アンモニア①	3.9×10^{-4}	2.6×10^{-3}																																										
		塩酸①-1	7.7×10^{-4}																																											
		塩酸①-2	1.4×10^{-3}																																											
		アンモニア②	3.1×10^{-5}																																											
	WSW	塩酸⑧-1	1.0×10^{-3}	1.9×10^{-2}																																										
		塩酸⑧-2	1.2×10^{-3}																																											
		塩酸⑧-3	1.5×10^{-2}																																											
		塩酸⑧-4	2.9×10^{-4}																																											
		塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}																																											
		塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}																																											
		メタノール⑫	1.3×10^{-4}																																											
		ガソリン⑮	6.0×10^{-6}																																											

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

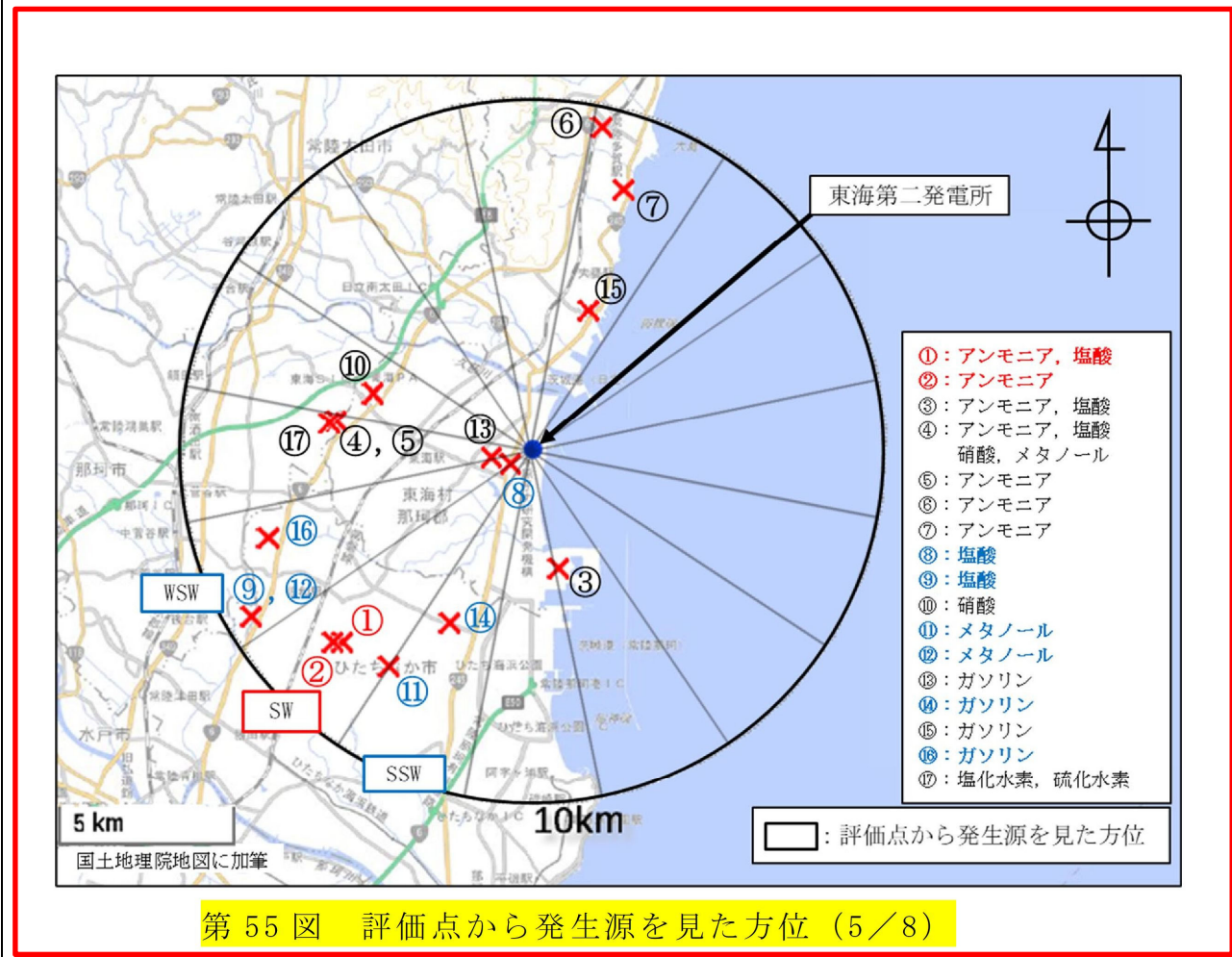
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																									
	<p style="text-align: center;">第7表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (6/8) (評価点：中央制御室外気取入口 着目方位：WSW)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価点から固定源を見た方位</th> <th>固定源</th> <th>当該方位における防護判断基準値との比 ※1</th> <th>隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="17" style="text-align: center;">中央 制御室</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">SW</td> <td>アンモニア①</td> <td style="text-align: right;">3.9×10^{-4}</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">2.6×10^{-3}</td> <td rowspan="17" style="text-align: center;">5.6×10^{-1}</td> <td rowspan="17" style="text-align: center;">影響なし</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td style="text-align: right;">7.7×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td style="text-align: right;">1.4×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td style="text-align: right;">3.1×10^{-5}</td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="text-align: center;">WSW</td> <td>塩酸⑧-1</td> <td style="text-align: right;">1.0×10^{-3}</td> <td rowspan="7" style="text-align: center;">1.9×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td style="text-align: right;">1.2×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td style="text-align: right;">1.5×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td style="text-align: right;">2.9×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-1</td> <td style="text-align: right;">1.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td style="text-align: right;">4.2×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td style="text-align: right;">1.3×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑩</td> <td style="text-align: right;">6.0×10^{-6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="8" style="text-align: center;">W</td> <td>アンモニア④</td> <td style="text-align: right;">7.0×10^{-4}</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">5.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td style="text-align: right;">2.3×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td style="text-align: right;">1.8×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td style="text-align: right;">9.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td style="text-align: right;">2.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td style="text-align: right;">4.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td style="text-align: right;">8.2×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td style="text-align: right;">1.1×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硫化水素⑱</td> <td style="text-align: right;">1.1×10^{-2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“-”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価	中央 制御室	SW	アンモニア①	3.9×10^{-4}	2.6×10^{-3}	5.6×10^{-1}	影響なし	塩酸①-1	7.7×10^{-4}	塩酸①-2	1.4×10^{-3}	アンモニア②	3.1×10^{-5}	WSW	塩酸⑧-1	1.0×10^{-3}	1.9×10^{-2}	塩酸⑧-2	1.2×10^{-3}	塩酸⑧-3	1.5×10^{-2}	塩酸⑧-4	2.9×10^{-4}	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}	メタノール⑫	1.3×10^{-4}	ガソリン⑩	6.0×10^{-6}	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.4×10^{-1}	塩酸④-1	2.3×10^{-3}	塩酸④-2	1.8×10^{-3}	硝酸④	9.0×10^{-4}	メタノール④	2.4×10^{-4}	アンモニア⑤	4.4×10^{-1}	ガソリン⑬	8.2×10^{-2}	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}	硫化水素⑱	1.1×10^{-2}	<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価																																																						
中央 制御室	SW	アンモニア①	3.9×10^{-4}	2.6×10^{-3}	5.6×10^{-1}	影響なし																																																					
		塩酸①-1	7.7×10^{-4}																																																								
		塩酸①-2	1.4×10^{-3}																																																								
		アンモニア②	3.1×10^{-5}																																																								
	WSW	塩酸⑧-1	1.0×10^{-3}	1.9×10^{-2}																																																							
		塩酸⑧-2	1.2×10^{-3}																																																								
		塩酸⑧-3	1.5×10^{-2}																																																								
		塩酸⑧-4	2.9×10^{-4}																																																								
		塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}																																																								
		塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}																																																								
		メタノール⑫	1.3×10^{-4}																																																								
	ガソリン⑩	6.0×10^{-6}																																																									
	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.4×10^{-1}																																																							
		塩酸④-1	2.3×10^{-3}																																																								
		塩酸④-2	1.8×10^{-3}																																																								
		硝酸④	9.0×10^{-4}																																																								
		メタノール④	2.4×10^{-4}																																																								
アンモニア⑤		4.4×10^{-1}																																																									
ガソリン⑬		8.2×10^{-2}																																																									
塩化水素⑰		1.1×10^{-3}																																																									
硫化水素⑱	1.1×10^{-2}																																																										

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

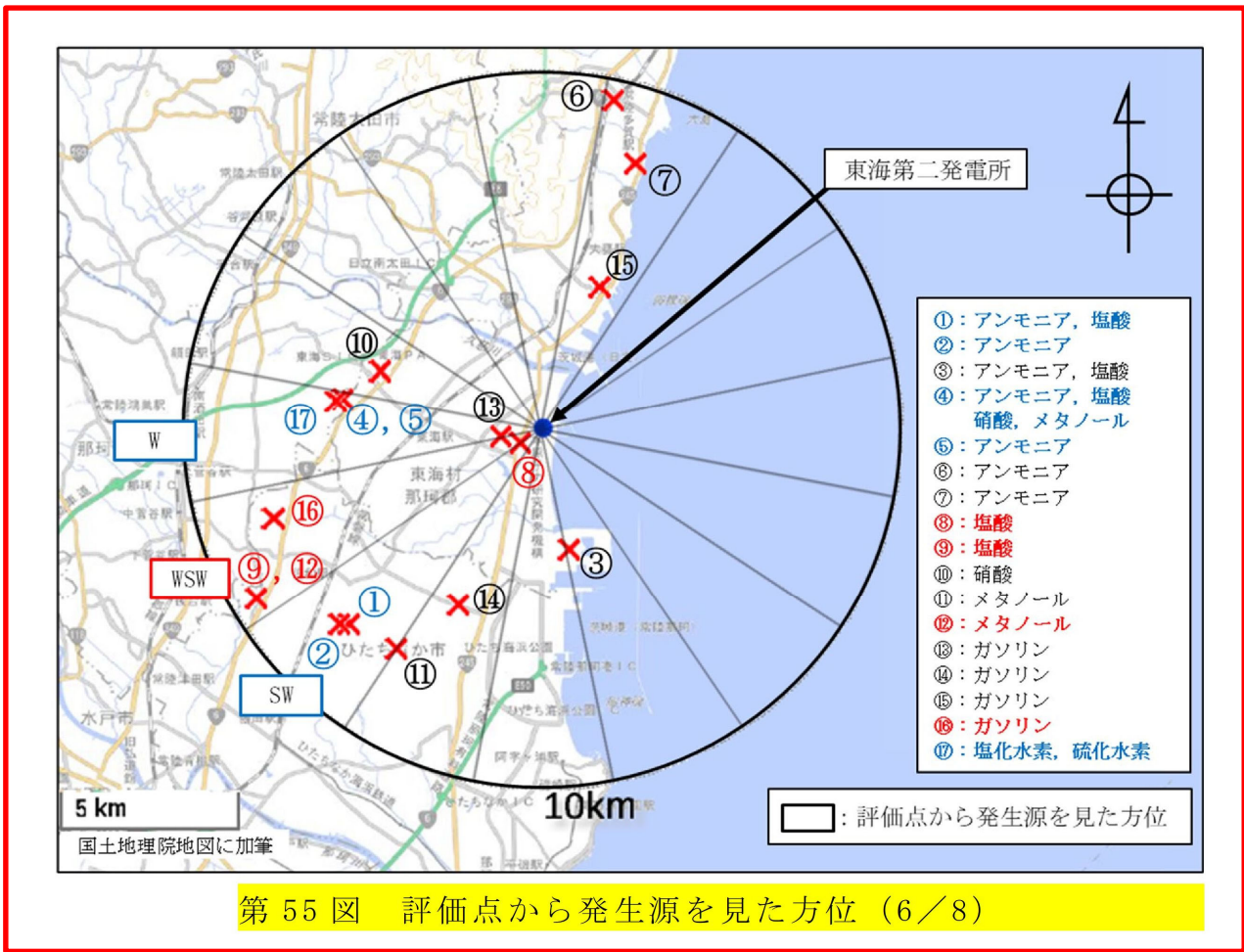
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																									
	<p style="text-align: center;">第7表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (7/8) (評価点：中央制御室外気取入口 着目方位：W)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価点から 固定源を見た方位</th> <th>固定源</th> <th>当該方位における 防護判断基準値との比 ※1</th> <th>隣接方位を含めた 防護判断基準値との 比の合計※2</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15" style="text-align: center;">中央 制御室</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">WSW</td> <td>塩酸⑧-1</td> <td style="text-align: center;">1.0×10^{-3}</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">1.9×10^{-2}</td> <td rowspan="15" style="text-align: center;">5.8×10^{-1}</td> <td rowspan="15" style="text-align: center;">影響なし</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td style="text-align: center;">1.2×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td style="text-align: center;">1.5×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td style="text-align: center;">2.9×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-1</td> <td style="text-align: center;">1.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td style="text-align: center;">4.2×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td style="text-align: center;">1.3×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑯</td> <td style="text-align: center;">6.0×10^{-6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="7" style="text-align: center;">W</td> <td>アンモニア④</td> <td style="text-align: center;">7.0×10^{-4}</td> <td rowspan="7" style="text-align: center;">5.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td style="text-align: center;">2.3×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td style="text-align: center;">1.8×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td style="text-align: center;">9.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td style="text-align: center;">2.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td style="text-align: center;">4.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td style="text-align: center;">8.2×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">WNW</td> <td>塩化水素⑰</td> <td style="text-align: center;">1.1×10^{-3}</td> <td rowspan="3" style="text-align: center;">1.8×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>硫化水素⑰</td> <td style="text-align: center;">1.1×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-1</td> <td style="text-align: center;">6.7×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>硝酸⑩-2</td> <td style="text-align: center;">1.2×10^{-2}</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“-”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から 固定源を見た方位	固定源	当該方位における 防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた 防護判断基準値との 比の合計※2	評価	中央 制御室	WSW	塩酸⑧-1	1.0×10^{-3}	1.9×10^{-2}	5.8×10^{-1}	影響なし	塩酸⑧-2	1.2×10^{-3}	塩酸⑧-3	1.5×10^{-2}	塩酸⑧-4	2.9×10^{-4}	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}	メタノール⑫	1.3×10^{-4}	ガソリン⑯	6.0×10^{-6}	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.4×10^{-1}	塩酸④-1	2.3×10^{-3}	塩酸④-2	1.8×10^{-3}	硝酸④	9.0×10^{-4}	メタノール④	2.4×10^{-4}	アンモニア⑤	4.4×10^{-1}	ガソリン⑬	8.2×10^{-2}	WNW	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}	1.8×10^{-2}	硫化水素⑰	1.1×10^{-2}	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}			硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}			<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から 固定源を見た方位	固定源	当該方位における 防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた 防護判断基準値との 比の合計※2	評価																																																						
中央 制御室	WSW	塩酸⑧-1	1.0×10^{-3}	1.9×10^{-2}	5.8×10^{-1}	影響なし																																																					
		塩酸⑧-2	1.2×10^{-3}																																																								
		塩酸⑧-3	1.5×10^{-2}																																																								
		塩酸⑧-4	2.9×10^{-4}																																																								
		塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}																																																								
		塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}																																																								
		メタノール⑫	1.3×10^{-4}																																																								
		ガソリン⑯	6.0×10^{-6}																																																								
	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.4×10^{-1}																																																							
		塩酸④-1	2.3×10^{-3}																																																								
		塩酸④-2	1.8×10^{-3}																																																								
		硝酸④	9.0×10^{-4}																																																								
		メタノール④	2.4×10^{-4}																																																								
		アンモニア⑤	4.4×10^{-1}																																																								
		ガソリン⑬	8.2×10^{-2}																																																								
WNW	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}	1.8×10^{-2}																																																								
	硫化水素⑰	1.1×10^{-2}																																																									
	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}																																																									
		硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}																																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

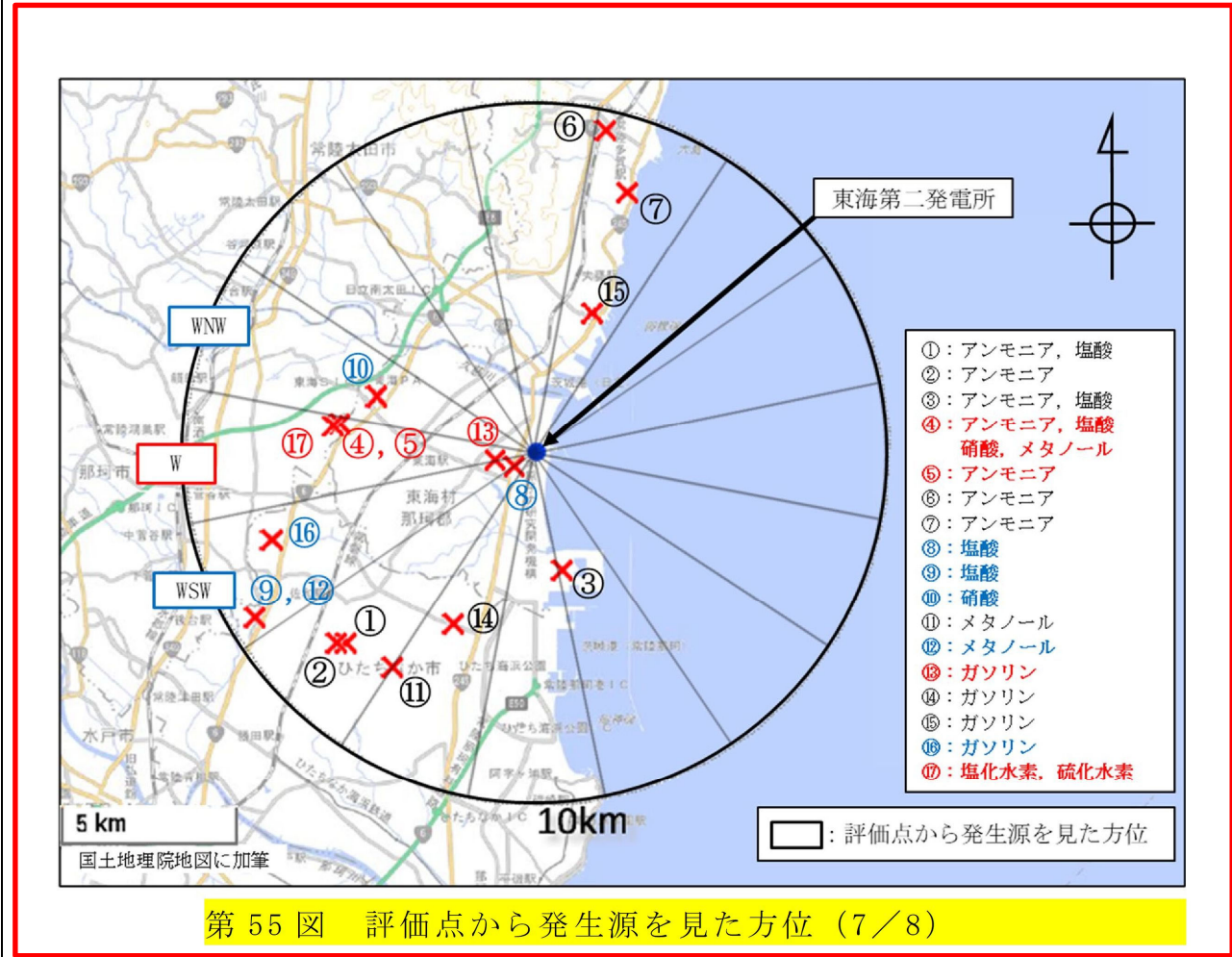
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																								
	<p style="text-align: center;">第7表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (8/8) (評価点：中央制御室外気取入口 着目方位：WNW)</p> <table border="1" data-bbox="1374 388 2513 1010"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価点から 固定源を見た方位</th> <th>固定源</th> <th colspan="2">当該方位における 防護判断基準値との比 ※1</th> <th>隣接方位を含めた 防護判断基準値との 比の合計※2</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">中央 制御室</td> <td rowspan="9">W</td> <td>アンモニア④</td> <td>7.0×10^{-4}</td> <td rowspan="9">5.4×10^{-1}</td> <td rowspan="10">5.6×10^{-1}</td> <td rowspan="10">影響なし</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td>2.3×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td>1.8×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td>9.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td>2.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td>4.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td>8.2×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td>1.1×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硫化水素⑱</td> <td>1.1×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">WNW</td> <td>硝酸⑩-1</td> <td>6.7×10^{-3}</td> <td rowspan="2">1.8×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-2</td> <td>1.2×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>NW</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“—”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から 固定源を見た方位	固定源	当該方位における 防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた 防護判断基準値との 比の合計※2	評価	中央 制御室	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.4×10^{-1}	5.6×10^{-1}	影響なし	塩酸④-1	2.3×10^{-3}	塩酸④-2	1.8×10^{-3}	硝酸④	9.0×10^{-4}	メタノール④	2.4×10^{-4}	アンモニア⑤	4.4×10^{-1}	ガソリン⑬	8.2×10^{-2}	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}	硫化水素⑱	1.1×10^{-2}	WNW	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}	1.8×10^{-2}	硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}	NW	—	—		<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から 固定源を見た方位	固定源	当該方位における 防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた 防護判断基準値との 比の合計※2	評価																																				
中央 制御室	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.4×10^{-1}	5.6×10^{-1}	影響なし																																				
		塩酸④-1	2.3×10^{-3}																																							
		塩酸④-2	1.8×10^{-3}																																							
		硝酸④	9.0×10^{-4}																																							
		メタノール④	2.4×10^{-4}																																							
		アンモニア⑤	4.4×10^{-1}																																							
		ガソリン⑬	8.2×10^{-2}																																							
		塩化水素⑰	1.1×10^{-3}																																							
		硫化水素⑱	1.1×10^{-2}																																							
	WNW	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}	1.8×10^{-2}																																						
硝酸⑩-2		1.2×10^{-2}																																								
NW	—	—																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

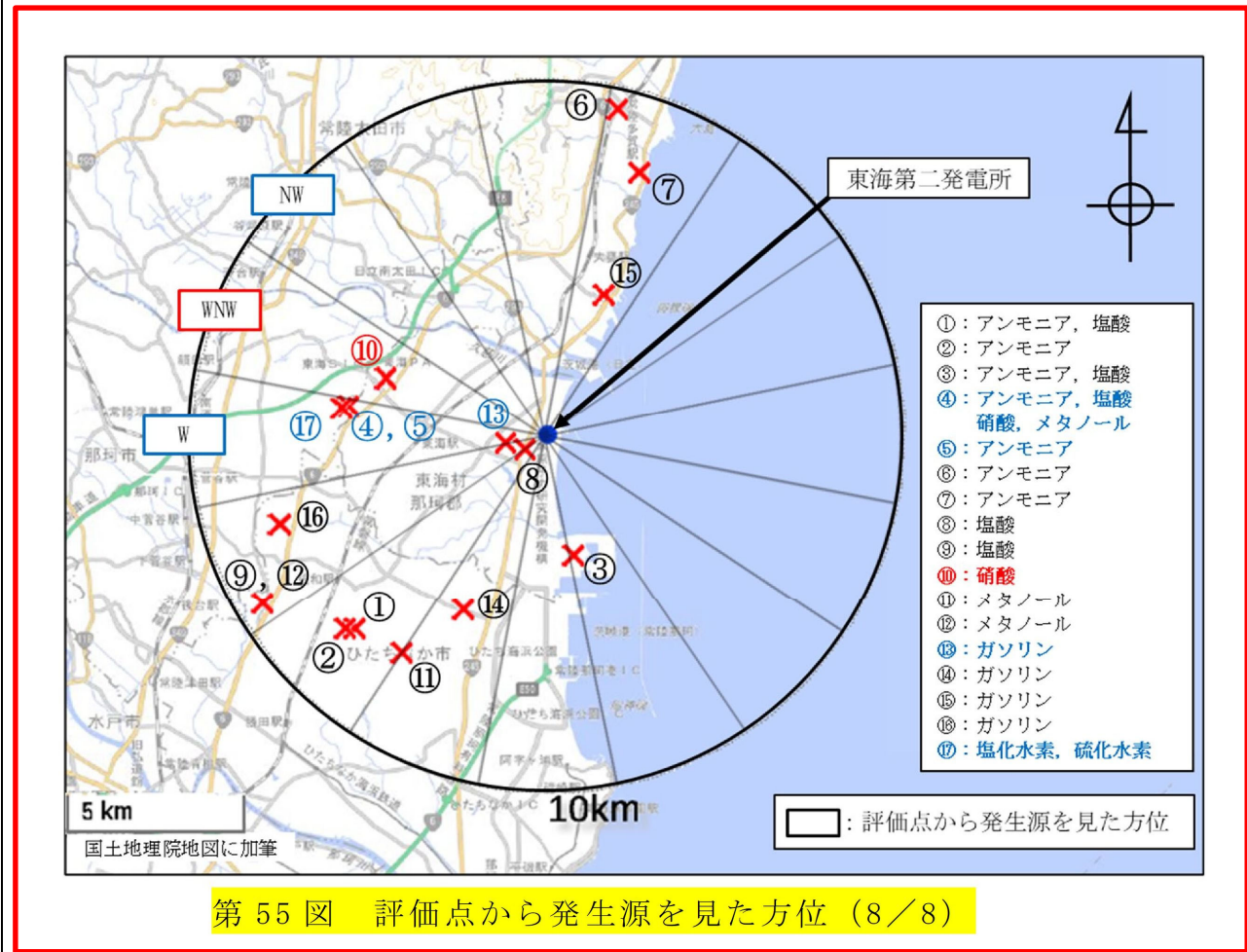
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

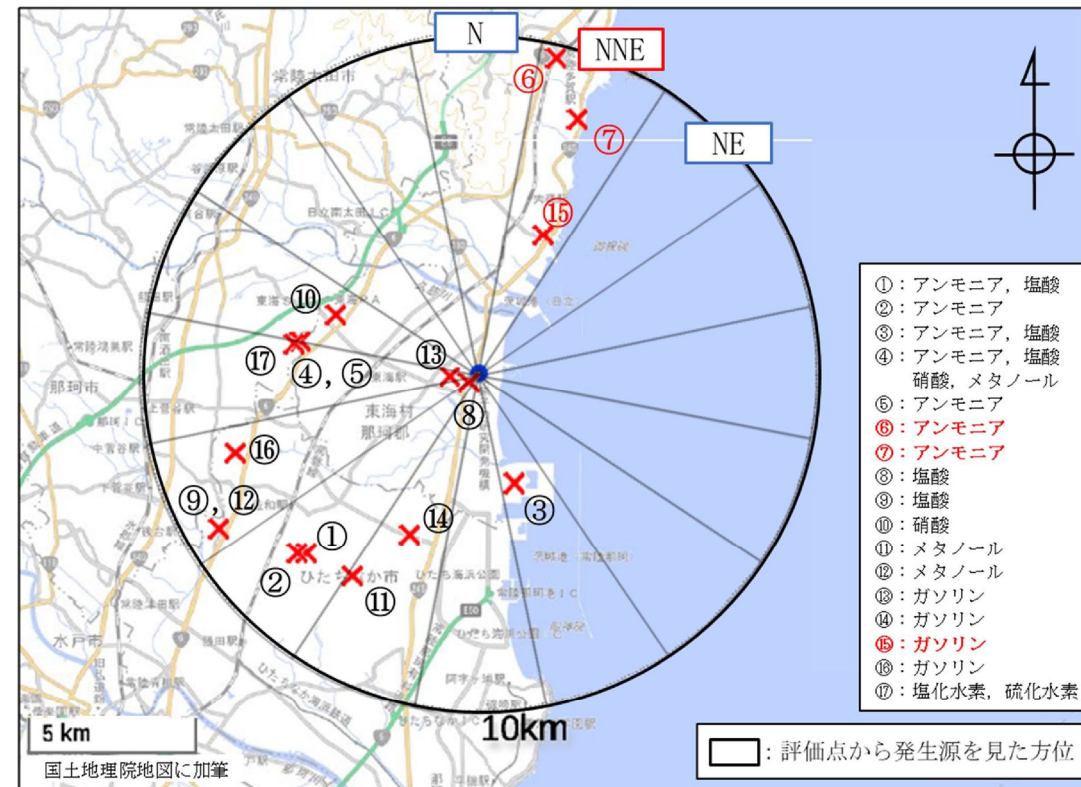
第8表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (1/8)

(評価点：緊急時対策所外気取入口 着目方位：NNE)

評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価
			※1			
緊急時対策所	N	—	—		4.7×10 ⁻²	影響なし
	NNE	アンモニア⑥	2.7×10 ⁻³	4.6×10 ⁻²		
		アンモニア⑦	1.5×10 ⁻³			
		ガソリン⑮	4.2×10 ⁻²			
NE	—	—				

※1 固定源がない方位に“—”を記載

※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載



第56図 評価点から発生源を見た方位 (1/8)

・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

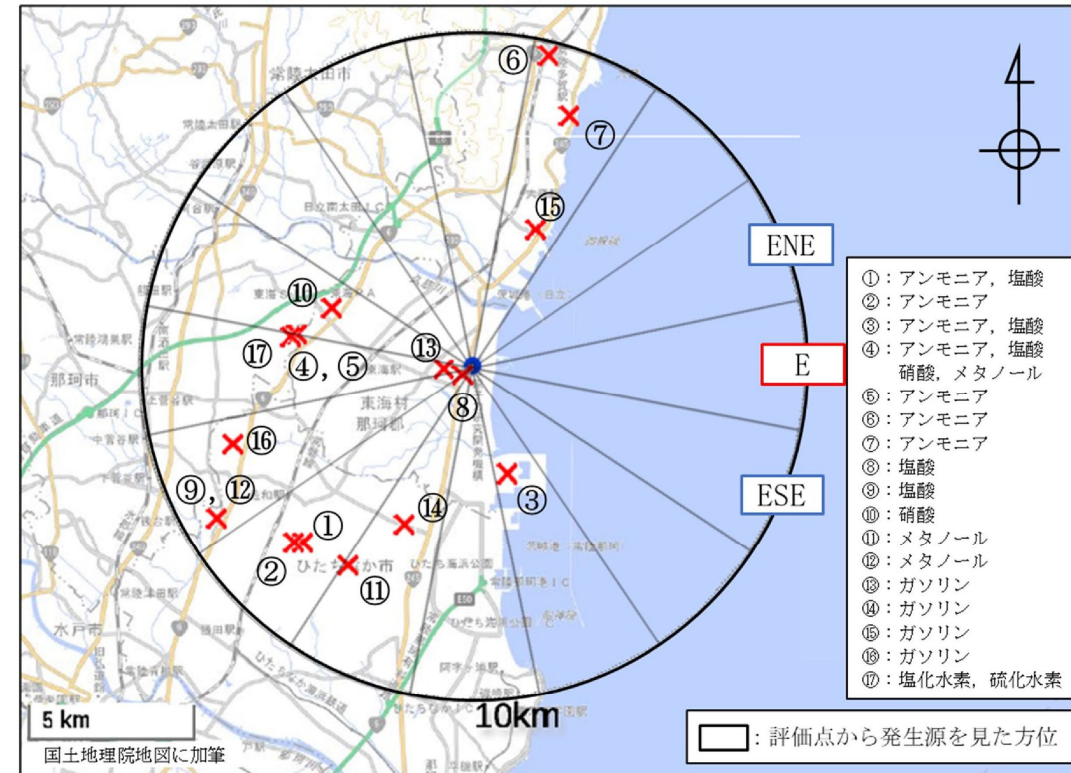
差異理由

第8表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (2/8)
(評価点：緊急時対策所外気取入口 着目方位：E)

評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価
緊急時対策所	ENE	—	—	1.9 × 10 ⁻²	影響なし
	E	アンモニア (敷地内)	1.9 × 10 ⁻²		
	ESE	—	—		

※1 固定源がない方位に“—”を記載

※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載



第56図 評価点から発生源を見た方位 (2/8)

・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由

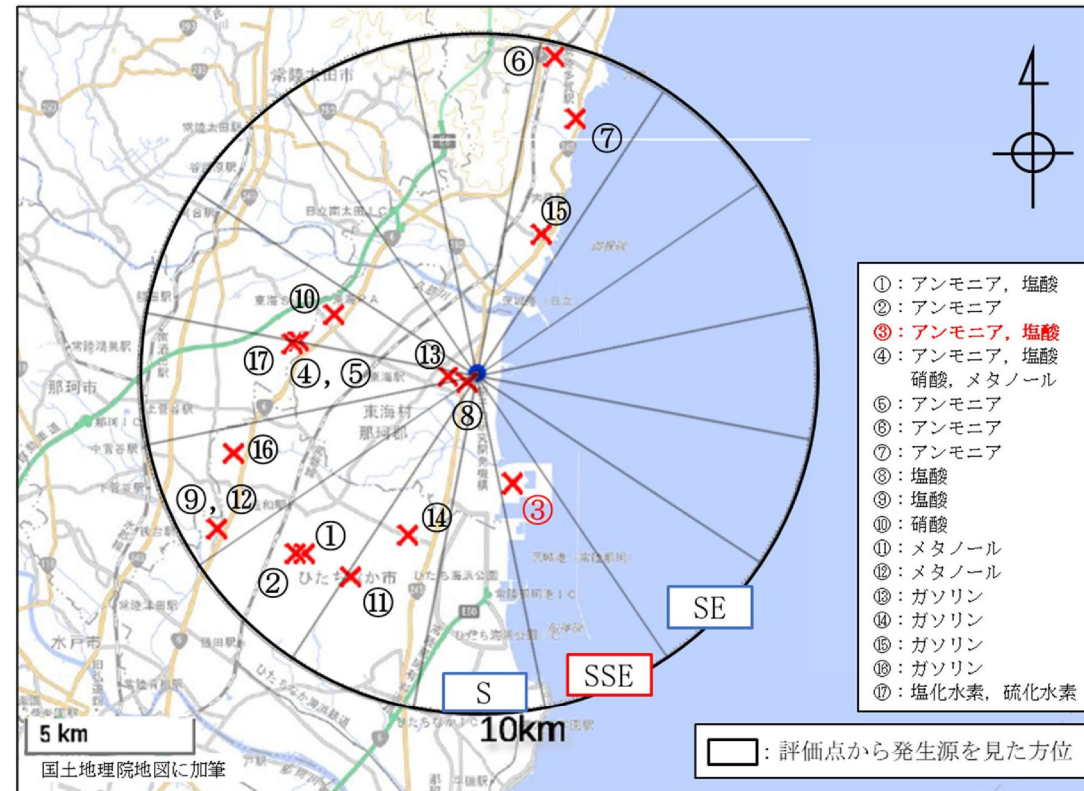
第8表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (3/8)
(評価点：緊急時対策所外気取入口 着目方位：SSE)

評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価
緊急時対策所	SE	-	-	2.3 × 10 ⁻¹	影響なし
	SSE	アンモニア③	2.2 × 10 ⁻¹		
		塩酸③-1	1.0 × 10 ⁻³		
		塩酸③-2	1.2 × 10 ⁻³		
S	-	-			

※1 固定源がない方位に“-”を記載

※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載

・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。



第56図 評価点から発生源を見た方位 (3/8)

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																						
	<p style="text-align: center;">第8表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (4/8) (評価点：緊急時対策所外気取入口 着目方位：SSW)</p> <table border="1" data-bbox="1359 411 2519 1003"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価点から固定源を見た方位</th> <th>固定源</th> <th colspan="2">当該方位における防護判断基準値との比 ※1</th> <th>隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">緊急時対策所</td> <td>S</td> <td>—</td> <td colspan="2">—</td> <td rowspan="10">8.4 × 10⁻²</td> <td rowspan="10">影響なし</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">SSW</td> <td>メタノール⑩</td> <td>1.4 × 10⁻³</td> <td rowspan="2">1.5 × 10⁻³</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑭</td> <td>8.3 × 10⁻⁶</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">SW</td> <td>アンモニア①</td> <td>3.9 × 10⁻⁴</td> <td rowspan="8">8.2 × 10⁻²</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td>7.7 × 10⁻⁴</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td>1.4 × 10⁻³</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>3.1 × 10⁻⁵</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-1</td> <td>1.6 × 10⁻³</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td>1.8 × 10⁻³</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td>7.5 × 10⁻²</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td>4.4 × 10⁻⁴</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“—”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価	緊急時対策所	S	—	—		8.4 × 10 ⁻²	影響なし	SSW	メタノール⑩	1.4 × 10 ⁻³	1.5 × 10 ⁻³	ガソリン⑭	8.3 × 10 ⁻⁶	SW	アンモニア①	3.9 × 10 ⁻⁴	8.2 × 10 ⁻²	塩酸①-1	7.7 × 10 ⁻⁴	塩酸①-2	1.4 × 10 ⁻³	アンモニア②	3.1 × 10 ⁻⁵	塩酸⑧-1	1.6 × 10 ⁻³	塩酸⑧-2	1.8 × 10 ⁻³	塩酸⑧-3	7.5 × 10 ⁻²	塩酸⑧-4	4.4 × 10 ⁻⁴	<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価																																		
緊急時対策所	S	—	—		8.4 × 10 ⁻²	影響なし																																		
	SSW	メタノール⑩	1.4 × 10 ⁻³	1.5 × 10 ⁻³																																				
		ガソリン⑭	8.3 × 10 ⁻⁶																																					
	SW	アンモニア①	3.9 × 10 ⁻⁴	8.2 × 10 ⁻²																																				
		塩酸①-1	7.7 × 10 ⁻⁴																																					
		塩酸①-2	1.4 × 10 ⁻³																																					
		アンモニア②	3.1 × 10 ⁻⁵																																					
		塩酸⑧-1	1.6 × 10 ⁻³																																					
		塩酸⑧-2	1.8 × 10 ⁻³																																					
		塩酸⑧-3	7.5 × 10 ⁻²																																					
塩酸⑧-4		4.4 × 10 ⁻⁴																																						

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

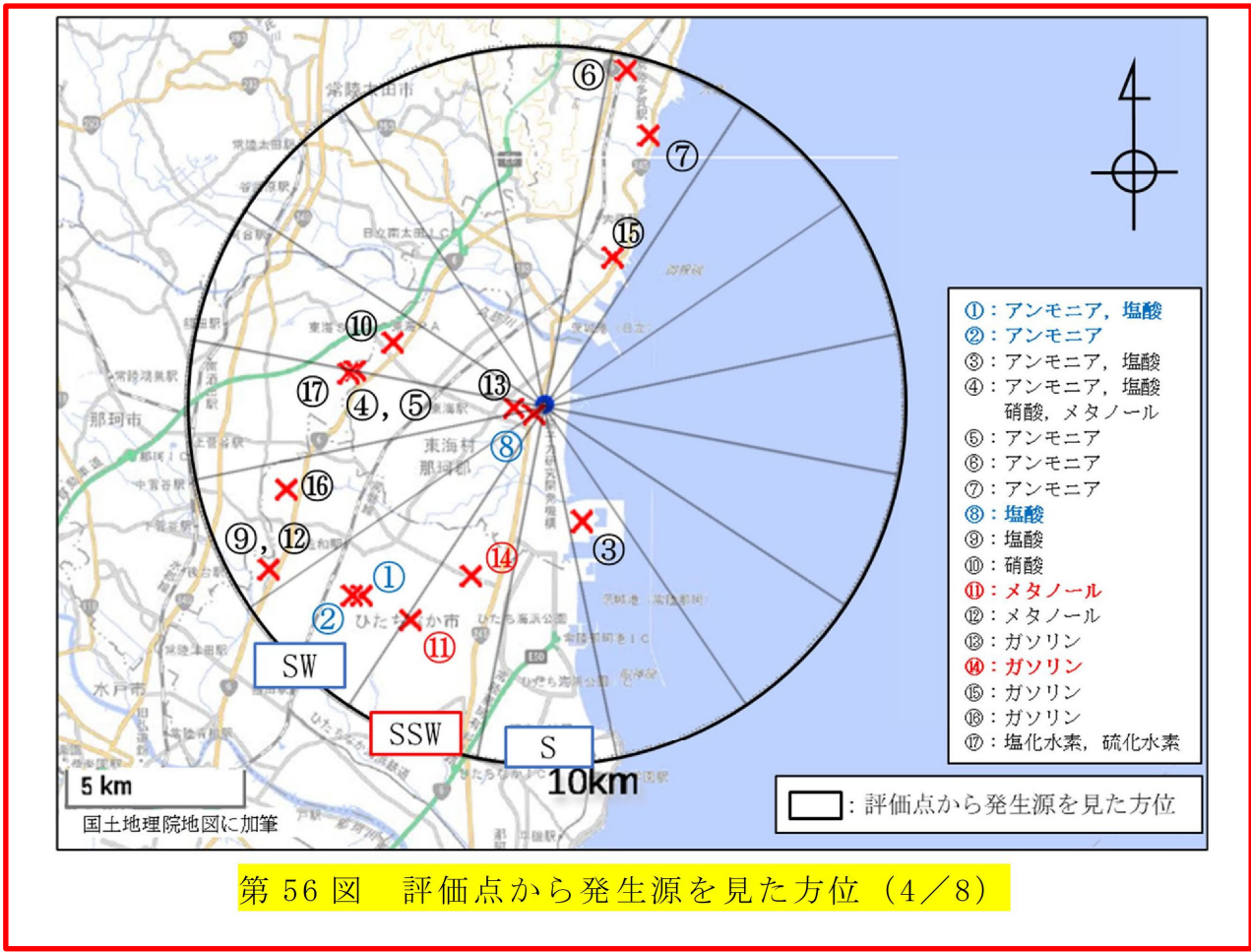
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																												
	<p style="text-align: center;">第8表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (5/8) (評価点：緊急時対策所外気取入口 着目方位：SW)</p> <table border="1" data-bbox="1362 384 2504 1094"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価点から固定源を見た方位</th> <th>固定源</th> <th colspan="2">当該方位における防護判断基準値との比 ※1</th> <th>隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="13">緊急時対策所</td> <td rowspan="2">SSW</td> <td>メタノール⑩</td> <td>1.4×10^{-3}</td> <td rowspan="2">1.5×10^{-3}</td> <td rowspan="13">8.4×10^{-2}</td> <td rowspan="13">影響なし</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑭</td> <td>8.3×10^{-6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">SW</td> <td>アンモニア①</td> <td>3.9×10^{-4}</td> <td rowspan="8">8.2×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td>7.7×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td>1.4×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>3.1×10^{-5}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-1</td> <td>1.6×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td>1.8×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td>7.5×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td>4.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">WSW</td> <td>塩酸⑨-1</td> <td>1.4×10^{-4}</td> <td rowspan="4">7.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td>4.2×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td>1.3×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑮</td> <td>6.0×10^{-6}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“-”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価	緊急時対策所	SSW	メタノール⑩	1.4×10^{-3}	1.5×10^{-3}	8.4×10^{-2}	影響なし	ガソリン⑭	8.3×10^{-6}	SW	アンモニア①	3.9×10^{-4}	8.2×10^{-2}	塩酸①-1	7.7×10^{-4}	塩酸①-2	1.4×10^{-3}	アンモニア②	3.1×10^{-5}	塩酸⑧-1	1.6×10^{-3}	塩酸⑧-2	1.8×10^{-3}	塩酸⑧-3	7.5×10^{-2}	塩酸⑧-4	4.4×10^{-4}	WSW	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	7.0×10^{-4}	塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}	メタノール⑫	1.3×10^{-4}	ガソリン⑮	6.0×10^{-6}	<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1		隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価																																								
緊急時対策所	SSW	メタノール⑩	1.4×10^{-3}	1.5×10^{-3}	8.4×10^{-2}	影響なし																																								
		ガソリン⑭	8.3×10^{-6}																																											
	SW	アンモニア①	3.9×10^{-4}	8.2×10^{-2}																																										
		塩酸①-1	7.7×10^{-4}																																											
		塩酸①-2	1.4×10^{-3}																																											
		アンモニア②	3.1×10^{-5}																																											
		塩酸⑧-1	1.6×10^{-3}																																											
		塩酸⑧-2	1.8×10^{-3}																																											
		塩酸⑧-3	7.5×10^{-2}																																											
		塩酸⑧-4	4.4×10^{-4}																																											
	WSW	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	7.0×10^{-4}																																										
		塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}																																											
		メタノール⑫	1.3×10^{-4}																																											
ガソリン⑮		6.0×10^{-6}																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

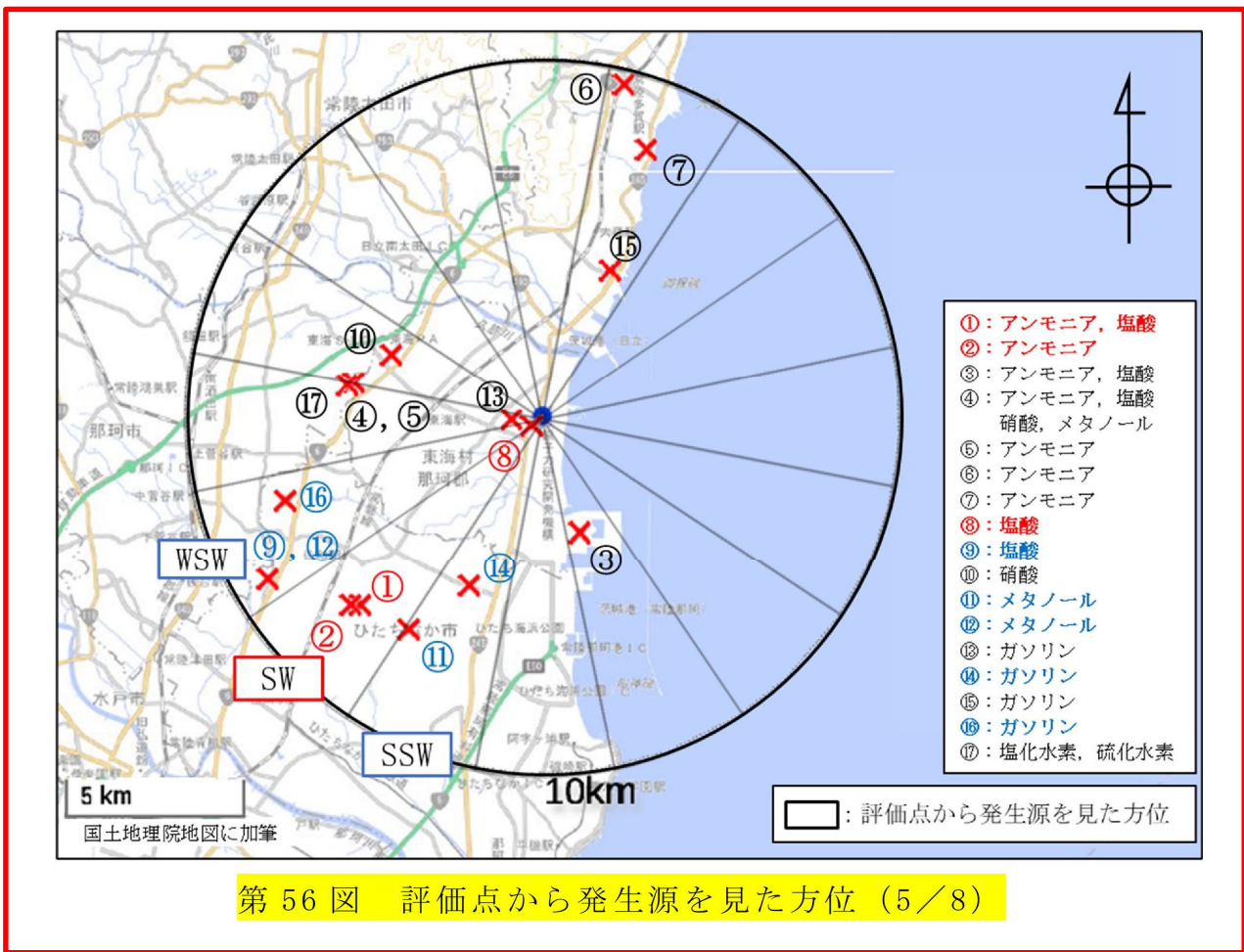
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																													
	<p style="text-align: center;">第8表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (6/8) (評価点：緊急時対策所外気取入口 着目方位：WSW)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価点から固定源を見た方位</th> <th>固定源</th> <th>当該方位における防護判断基準値との比 ※1</th> <th>隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="15">緊急時対策所</td> <td rowspan="7">SW</td> <td>アンモニア①</td> <td>3.9×10^{-4}</td> <td rowspan="7">8.2×10^{-2}</td> <td rowspan="15">影響なし</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-1</td> <td>7.7×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸①-2</td> <td>1.4×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア②</td> <td>3.1×10^{-5}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-1</td> <td>1.6×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-2</td> <td>1.8×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-3</td> <td>7.5×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑧-4</td> <td>4.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">WSW</td> <td>塩酸⑨-1</td> <td>1.4×10^{-4}</td> <td rowspan="3">7.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td>4.2×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td>1.3×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>ガソリン⑬</td> <td>6.0×10^{-6}</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="8">W</td> <td>アンモニア④</td> <td>7.0×10^{-4}</td> <td rowspan="8">5.8×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td>2.3×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td>1.8×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td>9.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td>2.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td>4.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td>1.2×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td>1.1×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>硫化水素⑰</td> <td>1.1×10^{-2}</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“-”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価	緊急時対策所	SW	アンモニア①	3.9×10^{-4}	8.2×10^{-2}	影響なし	塩酸①-1	7.7×10^{-4}	塩酸①-2	1.4×10^{-3}	アンモニア②	3.1×10^{-5}	塩酸⑧-1	1.6×10^{-3}	塩酸⑧-2	1.8×10^{-3}	塩酸⑧-3	7.5×10^{-2}	塩酸⑧-4	4.4×10^{-4}	WSW	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	7.0×10^{-4}	塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}	メタノール⑫	1.3×10^{-4}			ガソリン⑬	6.0×10^{-6}		W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.8×10^{-1}	塩酸④-1	2.3×10^{-3}	塩酸④-2	1.8×10^{-3}	硝酸④	9.0×10^{-4}	メタノール④	2.4×10^{-4}	アンモニア⑤	4.4×10^{-1}	ガソリン⑬	1.2×10^{-1}	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}			硫化水素⑰	1.1×10^{-2}	<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価																																																										
緊急時対策所	SW	アンモニア①	3.9×10^{-4}	8.2×10^{-2}	影響なし																																																										
		塩酸①-1	7.7×10^{-4}																																																												
		塩酸①-2	1.4×10^{-3}																																																												
		アンモニア②	3.1×10^{-5}																																																												
		塩酸⑧-1	1.6×10^{-3}																																																												
		塩酸⑧-2	1.8×10^{-3}																																																												
		塩酸⑧-3	7.5×10^{-2}																																																												
	塩酸⑧-4	4.4×10^{-4}																																																													
	WSW	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	7.0×10^{-4}																																																											
		塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}																																																												
		メタノール⑫	1.3×10^{-4}																																																												
			ガソリン⑬	6.0×10^{-6}																																																											
	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.8×10^{-1}																																																											
		塩酸④-1	2.3×10^{-3}																																																												
		塩酸④-2	1.8×10^{-3}																																																												
硝酸④		9.0×10^{-4}																																																													
メタノール④		2.4×10^{-4}																																																													
アンモニア⑤		4.4×10^{-1}																																																													
ガソリン⑬		1.2×10^{-1}																																																													
塩化水素⑰		1.1×10^{-3}																																																													
		硫化水素⑰	1.1×10^{-2}																																																												

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

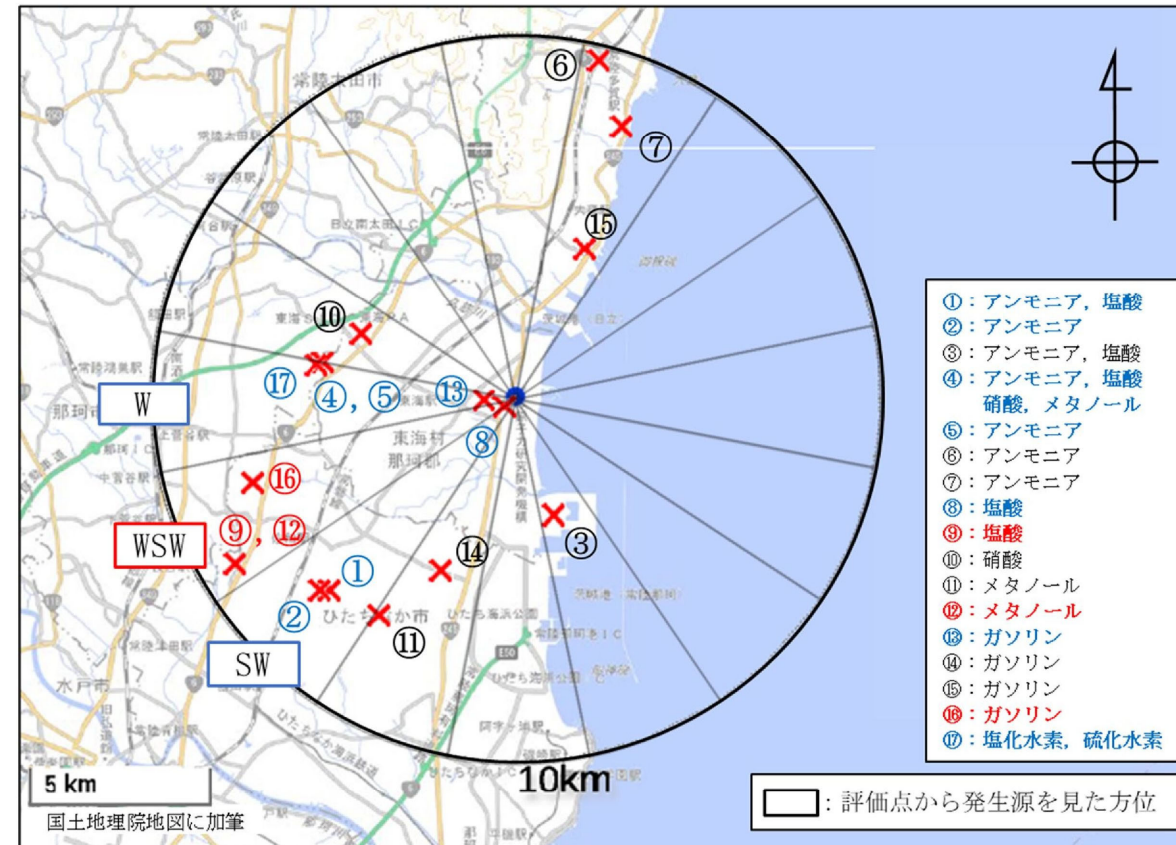
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



第56図 評価点から発生源を見た方位 (6/8)

・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																															
	<p style="text-align: center;">第8表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (7/8) (評価点：緊急時対策所外気取入口 着目方位：W)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>評価点から固定源を見た方位</th> <th>固定源</th> <th>当該方位における防護判断基準値との比 ※1</th> <th>隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="14">緊急時対策所</td> <td rowspan="4">WSW</td> <td>塩酸⑨-1</td> <td>1.4×10^{-4}</td> <td rowspan="4">7.0×10^{-4}</td> <td rowspan="14">影響なし</td> </tr> <tr> <td>塩酸⑨-2</td> <td>4.2×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール⑫</td> <td>1.3×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td>6.0×10^{-6}</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">W</td> <td>アンモニア④</td> <td>7.0×10^{-4}</td> <td rowspan="8">5.8×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td>2.3×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td>1.8×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td>9.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td>2.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td>4.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td>1.2×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td>1.1×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">WNW</td> <td>硫化水素⑰</td> <td>1.1×10^{-2}</td> <td rowspan="2">1.8×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-1</td> <td>6.7×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>硝酸⑩-2</td> <td>1.2×10^{-2}</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“-”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価	緊急時対策所	WSW	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	7.0×10^{-4}	影響なし	塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}	メタノール⑫	1.3×10^{-4}	ガソリン⑬	6.0×10^{-6}	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.8×10^{-1}	塩酸④-1	2.3×10^{-3}	塩酸④-2	1.8×10^{-3}	硝酸④	9.0×10^{-4}	メタノール④	2.4×10^{-4}	アンモニア⑤	4.4×10^{-1}	ガソリン⑬	1.2×10^{-1}	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}	WNW	硫化水素⑰	1.1×10^{-2}	1.8×10^{-2}	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}			硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}		<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価																																												
緊急時対策所	WSW	塩酸⑨-1	1.4×10^{-4}	7.0×10^{-4}	影響なし																																												
		塩酸⑨-2	4.2×10^{-4}																																														
		メタノール⑫	1.3×10^{-4}																																														
		ガソリン⑬	6.0×10^{-6}																																														
	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.8×10^{-1}																																													
		塩酸④-1	2.3×10^{-3}																																														
		塩酸④-2	1.8×10^{-3}																																														
		硝酸④	9.0×10^{-4}																																														
		メタノール④	2.4×10^{-4}																																														
		アンモニア⑤	4.4×10^{-1}																																														
		ガソリン⑬	1.2×10^{-1}																																														
		塩化水素⑰	1.1×10^{-3}																																														
	WNW	硫化水素⑰	1.1×10^{-2}	1.8×10^{-2}																																													
		硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}																																														
		硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

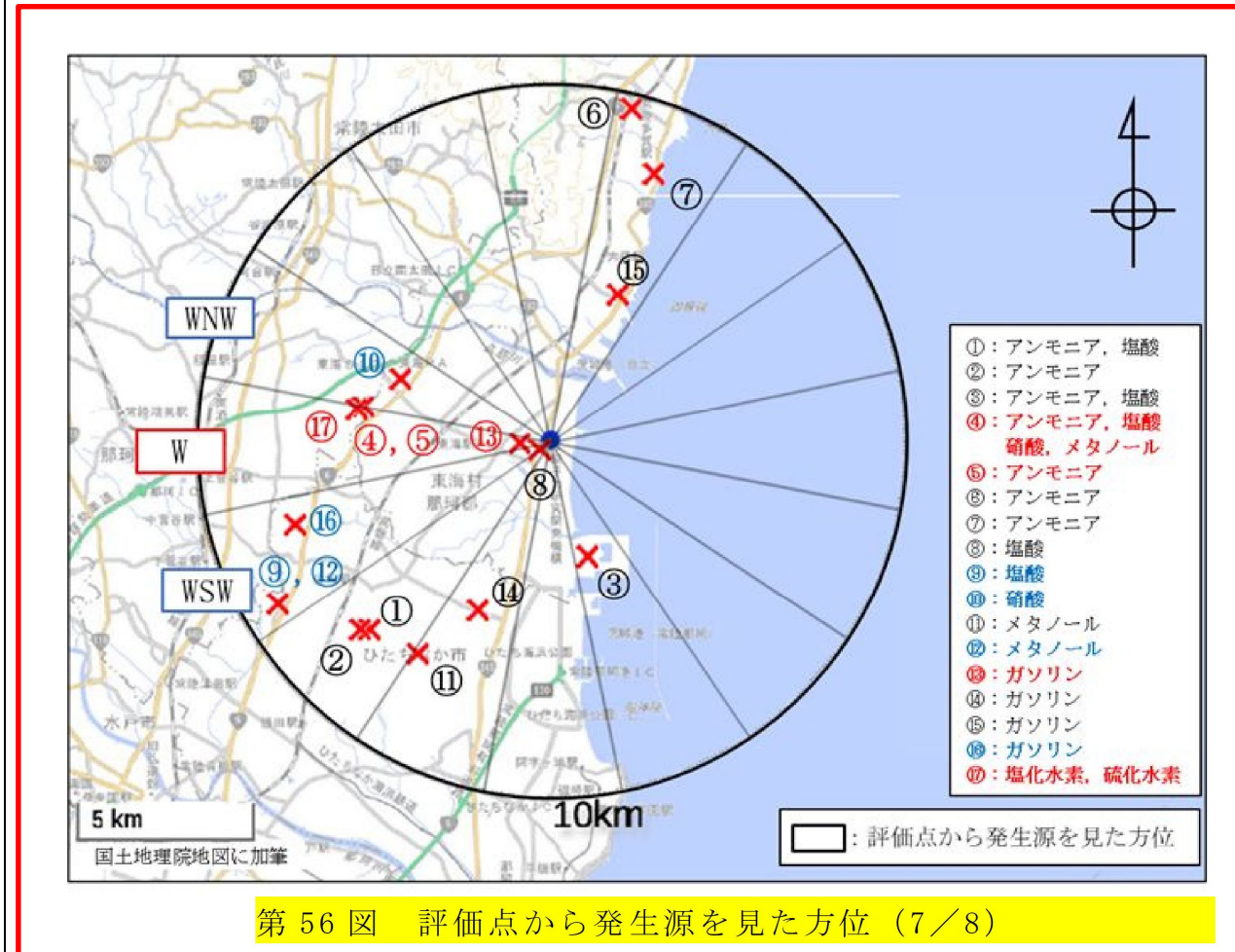
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室，緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																								
	<p style="text-align: center;">第8表 隣接方位を含めた固定源による有毒ガス影響評価結果 (8/8) (評価点：緊急時対策所外気取入口 着目方位：WNW)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">評価点</th> <th style="width: 15%;">評価点から固定源を見た方位</th> <th style="width: 15%;">固定源</th> <th style="width: 15%;">当該方位における防護判断基準値との比 ※1</th> <th style="width: 15%;">隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2</th> <th style="width: 10%;">評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10" style="text-align: center;">緊急時 対策所</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">W</td> <td>アンモニア④</td> <td style="text-align: center;">7.0×10^{-4}</td> <td rowspan="8" style="text-align: center;">5.8×10^{-1}</td> <td rowspan="10" style="text-align: center;">6.0×10^{-1}</td> <td rowspan="10" style="text-align: center;">影響なし</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-1</td> <td style="text-align: center;">2.3×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>塩酸④-2</td> <td style="text-align: center;">1.8×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硝酸④</td> <td style="text-align: center;">9.0×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>メタノール④</td> <td style="text-align: center;">2.4×10^{-4}</td> </tr> <tr> <td>アンモニア⑤</td> <td style="text-align: center;">4.4×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>ガソリン⑬</td> <td style="text-align: center;">1.2×10^{-1}</td> </tr> <tr> <td>塩化水素⑰</td> <td style="text-align: center;">1.1×10^{-3}</td> </tr> <tr> <td>硫化水素⑰</td> <td style="text-align: center;">1.1×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">WNW</td> <td>硝酸⑩-1</td> <td style="text-align: center;">6.7×10^{-3}</td> <td rowspan="2" style="text-align: center;">1.8×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td>硝酸⑩-2</td> <td style="text-align: center;">1.2×10^{-2}</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">NW</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 固定源がない方位に“-”を記載 ※2 有効数字2桁に切り上げた値を記載</p>	評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価	緊急時 対策所	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.8×10^{-1}	6.0×10^{-1}	影響なし	塩酸④-1	2.3×10^{-3}	塩酸④-2	1.8×10^{-3}	硝酸④	9.0×10^{-4}	メタノール④	2.4×10^{-4}	アンモニア⑤	4.4×10^{-1}	ガソリン⑬	1.2×10^{-1}	塩化水素⑰	1.1×10^{-3}	硫化水素⑰	1.1×10^{-2}	WNW	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}	1.8×10^{-2}	硝酸⑩-2	1.2×10^{-2}	NW	-	-			<p>・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。</p>
評価点	評価点から固定源を見た方位	固定源	当該方位における防護判断基準値との比 ※1	隣接方位を含めた防護判断基準値との比の合計※2	評価																																					
緊急時 対策所	W	アンモニア④	7.0×10^{-4}	5.8×10^{-1}	6.0×10^{-1}	影響なし																																				
		塩酸④-1	2.3×10^{-3}																																							
		塩酸④-2	1.8×10^{-3}																																							
		硝酸④	9.0×10^{-4}																																							
		メタノール④	2.4×10^{-4}																																							
		アンモニア⑤	4.4×10^{-1}																																							
		ガソリン⑬	1.2×10^{-1}																																							
		塩化水素⑰	1.1×10^{-3}																																							
	硫化水素⑰	1.1×10^{-2}																																								
	WNW	硝酸⑩-1	6.7×10^{-3}	1.8×10^{-2}																																						
硝酸⑩-2		1.2×10^{-2}																																								
NW	-	-																																								

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

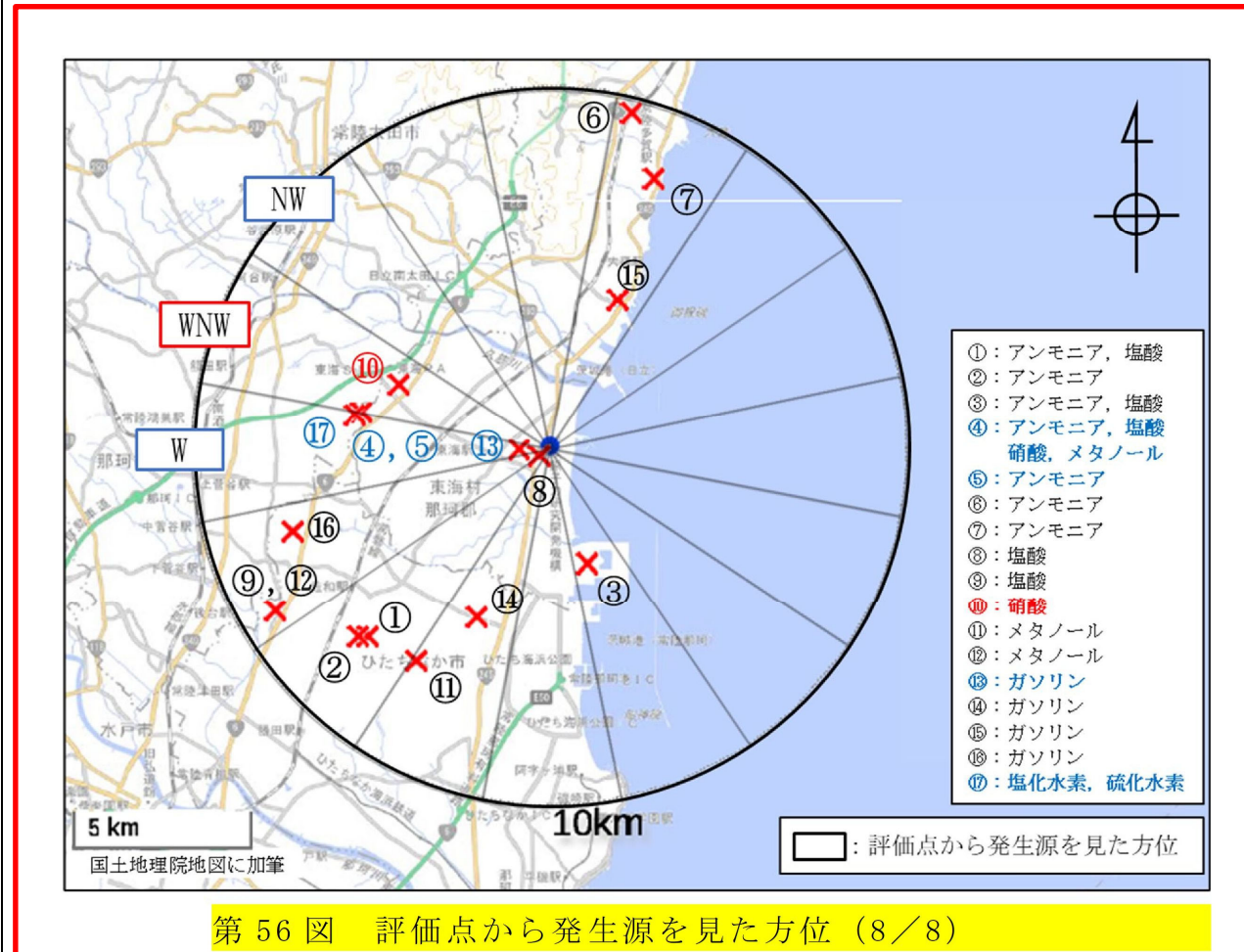
緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)

東海第二発電所 有毒ガス

差異理由



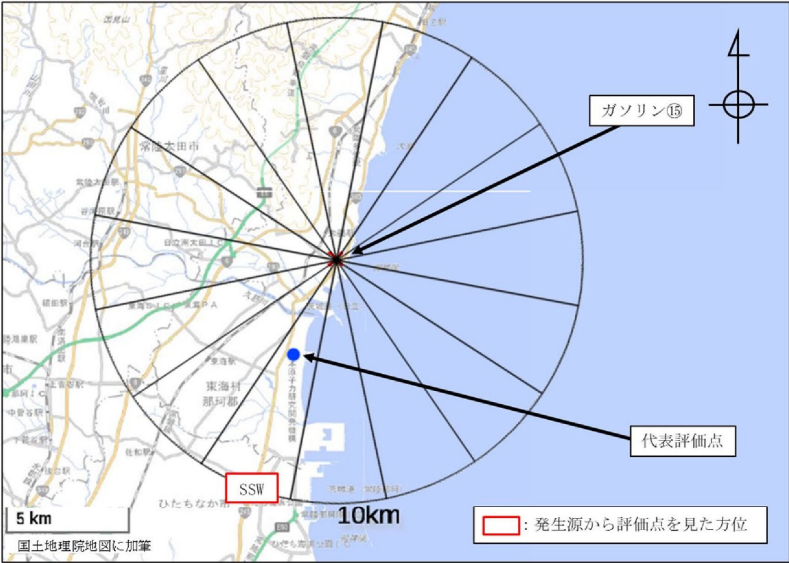
・東海第二は有毒ガスの外気濃度の評価結果まで記載した。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																	
	<p style="text-align: right;">参考資料</p> <p>液体状の固定源として評価するガソリンの評価方法について</p> <p>東海第二発電所の敷地外固定源として抽出されたガソリン4件のうち、3件については堰面積の情報が得られなかったため、防液堤を考慮せず全量が1時間で放出するものとして評価を実施しているが、堰面積の情報が得られた1件については堰を考慮し、液体状の固定源として評価を実施しているため、その評価方法について整理した。</p> <p>1. 液体状の固定源として評価を実施するガソリンについて</p> <p>東海第二発電所の敷地外固定源のうち、液体状の固定源として扱うガソリンについて第1表及び第1図に示す。</p> <p style="text-align: center;">第1表 液体状の固定源として扱うガソリン</p> <table border="1" data-bbox="1466 1079 2407 1209"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業所</th> <th rowspan="2">合計貯蔵量</th> <th colspan="2">薬品濃度 (wt%)</th> <th colspan="2">堰面積 (m²)</th> </tr> <tr> <th>届出情報</th> <th>評価条件</th> <th>届出情報</th> <th>評価条件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">⑮</td> <td>910000 (L)</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">-</td> <td rowspan="2">1688.17</td> <td rowspan="2">1689*</td> </tr> <tr> <td>2625000 (L)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 小数第一位を切り上げた値</p>  <p style="text-align: center;">第1図 ガソリン⑮から評価点を見た方位</p>	事業所	合計貯蔵量	薬品濃度 (wt%)		堰面積 (m ²)		届出情報	評価条件	届出情報	評価条件	⑮	910000 (L)	-	-	1688.17	1689*	2625000 (L)	<p>・スクリーニング評価対象の相違</p>
事業所	合計貯蔵量			薬品濃度 (wt%)		堰面積 (m ²)													
		届出情報	評価条件	届出情報	評価条件														
⑮	910000 (L)	-	-	1688.17	1689*														
	2625000 (L)																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	<p>2. ガソリンを液体状の発生源として評価することの妥当性について</p> <p>ガソリンは揮発性の物質であるため、貯蔵タンク等から漏えいした場合、堰全体に広がりつつ気化していくと考えられる。ガソリンを液体状の発生源として評価する場合、ガソリンは漏えいした後、即座に堰全体に広がり、堰面積に応じた蒸発率で蒸発するとして評価を行う。これは、実際にガソリンが漏えいし、蒸発していくよりも蒸発面積を広く評価することになり、保守的な結果になるため、液体状の固定源として堰を考慮し評価を実施した。</p> <p>3. 評価点におけるガソリンの外気濃度の評価について</p> <p>(1) 外気濃度 (kg/m³) の算出方法</p> <p>評価点におけるガソリンの外気濃度 (kg/m³) は、(1)式から(7)式を用いて年間毎時刻での蒸発率、相対濃度から外気濃度 (kg/m³) を算出し、その外気濃度 (kg/m³) を小さい方から順に並べ、累積出現頻度 97%に当たる値を用いた。累積出現頻度 97%に当たる値を用いる妥当性については、「5. 外気濃度 (kg/m³) の累積出現頻度 97%に当たる値を用いる妥当性について」で述べる。</p>	<p>・スクリーニング評価対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																
	$E = A \times K_M \times \left(\frac{M_w \times P_v}{R \times T} \right) \quad \dots (1)$ $K_M = 0.0048 \times U^{\frac{7}{9}} \times Z^{\frac{1}{9}} \times S_c^{\frac{2}{3}} \quad \dots (2)$ $S_c = \frac{v}{D_M} \quad \dots (3)$ $D_M = D_{H_2O} \times \sqrt{\frac{M_{WH_2O}}{M_{Wm}}} \quad \dots (4)$ $D_{H_2O} = D_0 \times \left(\frac{T}{273.15} \right)^{1.75} \quad \dots (5)$ $E_C = - \left(\frac{P_a}{P_v} \right) \ln \left(1 - \frac{P_v}{P_a} \right) \times E \quad \dots (6)$ $C = E_C \times \frac{X}{Q} \quad \dots (7)$	<p>・スクリーニング評価対象の相違</p>																																																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>単位</th> <th>記号の意味</th> <th>代入値</th> <th>代入値又は算出式の根拠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>K_M</td> <td>m/s</td> <td>化学物質の物質移動係数</td> <td>-</td> <td>・(2)式により算出</td> </tr> <tr> <td>M_w, M_{Wm}</td> <td>kg/kmol</td> <td>化学物質のモル質量</td> <td>78.1</td> <td>・物性値</td> </tr> <tr> <td>P_a</td> <td>Pa</td> <td>大気圧</td> <td>101,325</td> <td>・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版</td> </tr> <tr> <td>P_v</td> <td>Pa</td> <td>化学物質の分圧</td> <td>45,934</td> <td>・物性値(第2図 ガソリンの分圧曲線より算出)</td> </tr> <tr> <td>R</td> <td>J/(kmol・K)</td> <td>気体定数</td> <td>8314.45</td> <td>・気体定数 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版</td> </tr> <tr> <td>T</td> <td>K</td> <td>温度</td> <td>292.95</td> <td>・外気濃度(kg/m³)の累積出現頻度97%の時の温度(19.8℃)</td> </tr> <tr> <td>U</td> <td>m/s</td> <td>風速</td> <td>4.5</td> <td>・外気濃度(kg/m³)の累積出現頻度97%の時の風速</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>m²</td> <td>堰面積</td> <td>1689</td> <td>・ガソリン⑤の堰面積(評価条件)</td> </tr> <tr> <td>Z</td> <td>m</td> <td>プール直径</td> <td>-</td> <td>・堰面積より算出($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)</td> </tr> <tr> <td>$S_c$</td> <td>-</td> <td>化学物質のシュミット数</td> <td>-</td> <td>・(3)式により算出</td> </tr> <tr> <td>v</td> <td>m²/s</td> <td>空気の動粘性係数</td> <td>1.5×10^{-5}</td> <td>・雰囲気温度(T)と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出($v = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> <tr> <td>D_M</td> <td>m²/s</td> <td>化学物質の分子拡散係数</td> <td>-</td> <td>・(4)式により算出</td> </tr> <tr> <td>D_0</td> <td>m²/s</td> <td>水の物質拡散係数</td> <td>2.2×10^{-5}</td> <td>・定数(温度0℃, 大気圧P_aのとき) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> <tr> <td>D_{H_2O}</td> <td>m²/s</td> <td>水の物質拡散係数</td> <td>-</td> <td>・(5)式により算出(温度T, 圧力P_aのとき)</td> </tr> <tr> <td>M_{WH_2O}</td> <td>kg/kmol</td> <td>水のモル質量</td> <td>18.015</td> <td>・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会</td> </tr> </tbody> </table>	記号	単位	記号の意味	代入値	代入値又は算出式の根拠	K_M	m/s	化学物質の物質移動係数	-	・(2)式により算出	M_w, M_{Wm}	kg/kmol	化学物質のモル質量	78.1	・物性値	P_a	Pa	大気圧	101,325	・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版	P_v	Pa	化学物質の分圧	45,934	・物性値(第2図 ガソリンの分圧曲線より算出)	R	J/(kmol・K)	気体定数	8314.45	・気体定数 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版	T	K	温度	292.95	・外気濃度(kg/m ³)の累積出現頻度97%の時の温度(19.8℃)	U	m/s	風速	4.5	・外気濃度(kg/m ³)の累積出現頻度97%の時の風速	A	m ²	堰面積	1689	・ガソリン⑤の堰面積(評価条件)	Z	m	プール直径	-	・堰面積より算出($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)	S_c	-	化学物質のシュミット数	-	・(3)式により算出	v	m ² /s	空気の動粘性係数	1.5×10^{-5}	・雰囲気温度(T)と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出($v = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	D_M	m ² /s	化学物質の分子拡散係数	-	・(4)式により算出	D_0	m ² /s	水の物質拡散係数	2.2×10^{-5}	・定数(温度0℃, 大気圧 P_a のとき) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	D_{H_2O}	m ² /s	水の物質拡散係数	-	・(5)式により算出(温度T, 圧力 P_a のとき)	M_{WH_2O}	kg/kmol	水のモル質量	18.015	・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会	
記号	単位	記号の意味	代入値	代入値又は算出式の根拠																																																																														
K_M	m/s	化学物質の物質移動係数	-	・(2)式により算出																																																																														
M_w, M_{Wm}	kg/kmol	化学物質のモル質量	78.1	・物性値																																																																														
P_a	Pa	大気圧	101,325	・標準大気圧 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版																																																																														
P_v	Pa	化学物質の分圧	45,934	・物性値(第2図 ガソリンの分圧曲線より算出)																																																																														
R	J/(kmol・K)	気体定数	8314.45	・気体定数 文献：理科年表 平成31年(机上版) 丸善出版																																																																														
T	K	温度	292.95	・外気濃度(kg/m ³)の累積出現頻度97%の時の温度(19.8℃)																																																																														
U	m/s	風速	4.5	・外気濃度(kg/m ³)の累積出現頻度97%の時の風速																																																																														
A	m ²	堰面積	1689	・ガソリン⑤の堰面積(評価条件)																																																																														
Z	m	プール直径	-	・堰面積より算出($Z = (4/\pi \times A)^{0.5}$)																																																																														
S_c	-	化学物質のシュミット数	-	・(3)式により算出																																																																														
v	m ² /s	空気の動粘性係数	1.5×10^{-5}	・雰囲気温度(T)と大気圧における空気の密度及び粘性係数の文献値より算出($v = \text{粘性係数} / \text{密度}$) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														
D_M	m ² /s	化学物質の分子拡散係数	-	・(4)式により算出																																																																														
D_0	m ² /s	水の物質拡散係数	2.2×10^{-5}	・定数(温度0℃, 大気圧 P_a のとき) 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														
D_{H_2O}	m ² /s	水の物質拡散係数	-	・(5)式により算出(温度T, 圧力 P_a のとき)																																																																														
M_{WH_2O}	kg/kmol	水のモル質量	18.015	・物性値 文献：伝熱工学資料 改訂第5版 日本機械学会																																																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

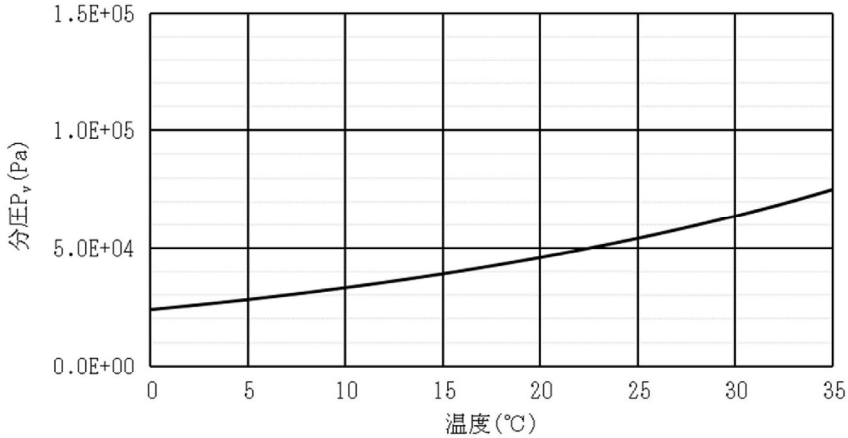
女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																				
	<p>(2) 外気濃度 (ppm) の算出方法</p> <p>3. (1) で求めた外気濃度 (kg/m³) に基づき評価点におけるガソリンの外気濃度 (ppm) は、(8) 式を用いて求めた。算出に際しては、外気濃度 (ppm) が保守的な値となるよう、温度 25℃として算出した。</p> <p>外気濃度 (ppm) $C_{ppm} = \frac{C}{M} \times 22.4 \times \frac{T}{273.15} \times 10^6 \dots (8)$</p> <table border="1" data-bbox="1439 682 2448 892"><thead><tr><th>記号</th><th>単位</th><th>記号の意味</th><th>代入値</th><th>代入値又は算出式の根拠</th></tr></thead><tbody><tr><td><i>C</i></td><td>kg/m³</td><td>外気濃度 (kg/m³)</td><td>—</td><td>・ (7) 式により算出</td></tr><tr><td><i>M</i></td><td>kg/kmol</td><td>化学物質のモル質量</td><td>78.1</td><td>・ 物性値</td></tr><tr><td><i>T</i></td><td>K</td><td>温度</td><td>298.15</td><td>・ 評価結果が保守的な値となるよう 25℃を設定</td></tr></tbody></table>	記号	単位	記号の意味	代入値	代入値又は算出式の根拠	<i>C</i>	kg/m ³	外気濃度 (kg/m ³)	—	・ (7) 式により算出	<i>M</i>	kg/kmol	化学物質のモル質量	78.1	・ 物性値	<i>T</i>	K	温度	298.15	・ 評価結果が保守的な値となるよう 25℃を設定	<p>・ スクリーニング評価対象の相違</p>
記号	単位	記号の意味	代入値	代入値又は算出式の根拠																		
<i>C</i>	kg/m ³	外気濃度 (kg/m ³)	—	・ (7) 式により算出																		
<i>M</i>	kg/kmol	化学物質のモル質量	78.1	・ 物性値																		
<i>T</i>	K	温度	298.15	・ 評価結果が保守的な値となるよう 25℃を設定																		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由								
	<p>4. 評価に用いたガソリンの物性値について</p> <p>液体状の固定源として評価するガソリンについて、評価に用いた物性値を第2表及び第2図に示す。</p> <p>ガソリンのモル質量については、ガソリンが炭化水素の混合物であることから、外気濃度が保守的に大きくなるよう、ベンゼンの分子量を用いた。</p> <p style="text-align: center;">第2表 ガソリンの物性値</p> <table border="1" data-bbox="1451 709 2418 835"><thead><tr><th>対象物質</th><th>濃度 (wt%)</th><th>モル質量 (g/mol)</th><th>液密度 (kg/m³)</th></tr></thead><tbody><tr><td>ガソリン</td><td>—</td><td>78.1</td><td>800</td></tr></tbody></table> <div style="text-align: center;"><p>第2図 ガソリンの分圧曲線</p></div>	対象物質	濃度 (wt%)	モル質量 (g/mol)	液密度 (kg/m ³)	ガソリン	—	78.1	800	<p>・スクリーニング評価対象の相違</p>
対象物質	濃度 (wt%)	モル質量 (g/mol)	液密度 (kg/m ³)							
ガソリン	—	78.1	800							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス（令和4年4月8日提出版）	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由
	<p>5. 外気濃度（kg/m³）の累積出現頻度 97%に当たる値を用いる妥当性について</p> <p>被ばく評価では、放射性物質の評価点濃度を放出率と相対濃度を乗じることによって算出し、線量を評価している。この時、相対濃度を保守的に評価するため、気象指針等においては年間の気象データから算出した相対濃度の累積出現頻度 97%に当たる値を用いることとしている。</p> <p>これは、放出開始時間によって大気拡散（相対濃度）の様相が異なるために線量変動することに対して、保守的に評価を行う観点から気象指針等に定められているものであり、放出率が大気拡散（相対濃度）の様相に影響されないことが前提となっていることから、相対濃度のみに着目して統計処理を行うことができる。</p> <p>一方、第3図に示すように、有毒ガスの評価においても、評価点濃度を評価する点から共通の考えが適用できる。しかしながら、有毒ガスの評価では、被ばく評価と異なり、外気濃度（kg/m³）を算出するための放出率（蒸発率）についても、気象条件の影響を受ける。そのため、被ばく評価と同様に相対濃度のみに着目して統計処理を行うと、外気濃度（kg/m³）が保守的に評価できないことから、年間の気象データを用いて蒸発率及び相対濃度を算出し、それらから得られる外気濃度（kg/m³）の累積出現頻度 97%に当たる値を評価に用いる必要がある。</p>	<p>・スクリーニング評価対象の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）

青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

中央制御室、緊急時対策所及び重大事故等対処上特に重要な操作を行う地点の有毒ガス防護について 比較表

女川原子力発電所 2号炉 有毒ガス (令和4年4月8日提出版)	東海第二発電所 有毒ガス	差異理由																																																																																																																								
	<div style="text-align: center;"> <p>評価点濃度 放出率 相対濃度</p> <p>被ばく評価 Bq/m^3 = Bq/s × s/m^3</p> <p>有毒ガス評価 kg/m^3 = kg/s × s/m^3</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">気象の影響あり</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">放出率は一定値</p> 気象条件から算出 <p>被ばく評価の統計処理イメージ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年間気象データ</th> <th colspan="4">気象条件</th> <th rowspan="2">放出率 (Bq/s)</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m^3)</th> <th rowspan="2">評価点濃度 (Bq/m^3)</th> </tr> <tr> <th>風向</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>人気安定度</th> <th>気温 ($^{\circ}C$)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>W</td><td>1.9</td><td>B</td><td>6.3</td><td>2.20E+00</td><td>3.36E-07</td><td>7.39E-07</td></tr> <tr><td>2</td><td>WSW</td><td>3.9</td><td>B</td><td>11.4</td><td>2.20E+00</td><td>1.64E-07</td><td>3.61E-07</td></tr> <tr><td>3</td><td>NNE</td><td>1.4</td><td>B</td><td>10.2</td><td>2.20E+00</td><td>4.56E-07</td><td>1.00E-06</td></tr> <tr><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td></tr> <tr><td>8759</td><td>E</td><td>0.5</td><td>F</td><td>23.2</td><td>2.20E+00</td><td>1.61E-04</td><td>3.54E-04</td></tr> <tr><td>8760</td><td>NNE</td><td>0.5</td><td>F</td><td>24.1</td><td>2.20E+00</td><td>1.61E-04</td><td>3.54E-04</td></tr> </tbody> </table> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">相対濃度の累積出現頻度97%の時の気象条件と評価点濃度の累積出現頻度97%の時の気象条件は同じ</p> <p>有毒ガス評価の統計処理イメージ</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年間気象データ</th> <th colspan="4">気象条件</th> <th rowspan="2">蒸発率 (Bq/s)</th> <th rowspan="2">相対濃度 (s/m^3)</th> <th rowspan="2">評価点濃度 (kg/m^3)</th> </tr> <tr> <th>風向</th> <th>風速 (m/s)</th> <th>大気安定度</th> <th>気温 ($^{\circ}C$)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>W</td><td>1.9</td><td>B</td><td>6.3</td><td>8.82E+00</td><td>3.36E-07</td><td>7.39E-07</td></tr> <tr><td>2</td><td>WSW</td><td>3.9</td><td>B</td><td>11.4</td><td>1.86E+01</td><td>1.64E-07</td><td>3.61E-07</td></tr> <tr><td>3</td><td>NNE</td><td>1.4</td><td>B</td><td>10.2</td><td>8.00E+00</td><td>4.56E-07</td><td>1.00E-06</td></tr> <tr><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td><td>...</td></tr> <tr><td>8759</td><td>E</td><td>0.5</td><td>F</td><td>23.2</td><td>6.01E+00</td><td>1.61E-04</td><td>3.54E-04</td></tr> <tr><td>8760</td><td>NNE</td><td>0.5</td><td>F</td><td>24.1</td><td>6.25E+00</td><td>1.61E-04</td><td>3.54E-04</td></tr> </tbody> </table> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">相対濃度の累積出現頻度97%の時の気象条件と評価点濃度の累積出現頻度97%の時の気象条件は異なる</p> </div>	年間気象データ	気象条件				放出率 (Bq/s)	相対濃度 (s/m^3)	評価点濃度 (Bq/m^3)	風向	風速 (m/s)	人気安定度	気温 ($^{\circ}C$)	1	W	1.9	B	6.3	2.20E+00	3.36E-07	7.39E-07	2	WSW	3.9	B	11.4	2.20E+00	1.64E-07	3.61E-07	3	NNE	1.4	B	10.2	2.20E+00	4.56E-07	1.00E-06	8759	E	0.5	F	23.2	2.20E+00	1.61E-04	3.54E-04	8760	NNE	0.5	F	24.1	2.20E+00	1.61E-04	3.54E-04	年間気象データ	気象条件				蒸発率 (Bq/s)	相対濃度 (s/m^3)	評価点濃度 (kg/m^3)	風向	風速 (m/s)	大気安定度	気温 ($^{\circ}C$)	1	W	1.9	B	6.3	8.82E+00	3.36E-07	7.39E-07	2	WSW	3.9	B	11.4	1.86E+01	1.64E-07	3.61E-07	3	NNE	1.4	B	10.2	8.00E+00	4.56E-07	1.00E-06	8759	E	0.5	F	23.2	6.01E+00	1.61E-04	3.54E-04	8760	NNE	0.5	F	24.1	6.25E+00	1.61E-04	3.54E-04	<p>・スクリーニング評価対象の相違</p>
年間気象データ	気象条件				放出率 (Bq/s)	相対濃度 (s/m^3)				評価点濃度 (Bq/m^3)																																																																																																																
	風向	風速 (m/s)	人気安定度	気温 ($^{\circ}C$)																																																																																																																						
1	W	1.9	B	6.3	2.20E+00	3.36E-07	7.39E-07																																																																																																																			
2	WSW	3.9	B	11.4	2.20E+00	1.64E-07	3.61E-07																																																																																																																			
3	NNE	1.4	B	10.2	2.20E+00	4.56E-07	1.00E-06																																																																																																																			
...																																																																																																																			
8759	E	0.5	F	23.2	2.20E+00	1.61E-04	3.54E-04																																																																																																																			
8760	NNE	0.5	F	24.1	2.20E+00	1.61E-04	3.54E-04																																																																																																																			
年間気象データ	気象条件				蒸発率 (Bq/s)	相対濃度 (s/m^3)	評価点濃度 (kg/m^3)																																																																																																																			
	風向	風速 (m/s)	大気安定度	気温 ($^{\circ}C$)																																																																																																																						
1	W	1.9	B	6.3	8.82E+00	3.36E-07	7.39E-07																																																																																																																			
2	WSW	3.9	B	11.4	1.86E+01	1.64E-07	3.61E-07																																																																																																																			
3	NNE	1.4	B	10.2	8.00E+00	4.56E-07	1.00E-06																																																																																																																			
...																																																																																																																			
8759	E	0.5	F	23.2	6.01E+00	1.61E-04	3.54E-04																																																																																																																			
8760	NNE	0.5	F	24.1	6.25E+00	1.61E-04	3.54E-04																																																																																																																			
<p>第3図 被ばく評価及び有毒ガス評価の評価点濃度の算出方法</p>																																																																																																																										